

△南向きの丘の斜面に麦畑があった。学校へつづく道を歩きながら、手で軽くなでなかりの  
か好きだった。✓

# ふかんど

オ82号

1981.10.14

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市本北方二丁目三番六  
電話 0476-1-1666  
支責 木林 田三郎

会費 年2000

創刊  
1980.6.3



最初の芦小屋。草はガマ。50m先のくぼ地に  
セイタカシギの巣。草原と空だけが見える。

「さぶよう、オレ産のここんと何にもねえべえ、そんでよお、そこいらに有るそんでえ何んか作んべえよお、ここんとこおどうにかすんべえよお」。

「ようがキ大將のマーちゃんは言った。それはさう、約30年近くと前のことである。

夏の、草いきれの中に潮の香と混じる、干潟と土手を境にした草ムラだった。「ギイ  
イーチョン、チョンギース」と、ギッチ  
ヨがそこいらじゆう、湧く如く鳴りつた。  
「あちりんなあマーちゃん、どうやって  
やんのあ？」。「うーん、あちりッさん  
なあさぶう、んだからよお草あつかってえ  
やんだよお、うち作って涼しくすんべえ、  
すんでえそん中であつこころかっつ休むべ  
よおー、んなあ」。「でぎんのマーち  
やん、すげえなあやんべえよお、オレ産の

かく水家だとなあ」。オレえ作ってみんか  
んよお、さぶどいっしよにやんだどお、いっか  
あ、んいやあよおさぶう草かたんかあよのへん  
から何か持って来いよお」。「うーん」。  
てな調子だった。道具と言えどのは何とな  
かった。ないうら思ッとなかった。板キレヤ  
棒がシャベル代りで、草かヒモの代りになつて  
、イホでりわえた。常日頃から見つて、経験  
で知つてつ草の性質や形、いっんな草を思ッ  
浮かべては、あ草はああやんべえ、  
んでえとー、この草は、あんと  
こにやつてみんべえ」と、イホが  
水の草を、イホイホに役立てて  
いこうと思つてだった。幼り頭  
で、無り頭をいっしよけんめい  
ぼつは、思ひめぐらし、イホ  
に作ろうとしてつ小屋と、小  
さな頭の中に入つてつ野原と  
水辺、イホここに生えつ草  
を、イホこいっしよけんめいに組み合  
わせたのだった。「あの草あ、やつてみんべえ  
しと、幼り、ボンヤリ頭に、チカッとひらめき  
、草と小屋の意見が一致する」と、又とりかか  
るのであった。



やつとこさつとこ出来上つて中に入る。五感  
をこつて満悦感をかみめたのだった。  
今思えば、小屋とは言えないうしろモノで、み  
ちばらういそのだった。イー、大南が吹くと  
、何もかもみんな吹っ飛ばしてしまつた。いー。

# サンクチュアリ看板立つ

谷津干潟を、サンクチュアリにしようノ  
 谷津干潟を、自然教育園にしようノ  
 谷津干潟を、鳥獣保護区にしようノ



谷津干潟に環境権を、体現しようノ  
 谷津干潟に入浜権を、具現せようノ  
 谷津干潟に教育権を、具体化しようノ  
 谷津干潟に人格権を、証明しようノ

ほか何かありませんか。守る為、残す為に何でいい。ええーい、それじゃこの際、まとめて面倒みちゃって、何でいいのでしょ、愛護会は。野鳥の会や干潟を守る会は、何だかスタスタモシタヤって、角つき合わせているけど、それを使うエネルギーの何百分の一でいいから、あの埋め立て地の渡り鳥の為に用いてくればよかったですの  
 をーい。

やっぱり目黒・企業者一と  
 ゴミ戦争やるーかなーいよ

これみんな、企業者工事のゴミ・不法投棄物なんです。干潟や水路のすぐそばだ。こういうものをほったらかして、「企業者は我々自分の庭以上に、埋め立て地を県民の皆さんからあずかった財産として、きつりに

大事にしてるんですよ。ーいなんて言ってるんですからね。森田は明日にでも、所長の机の上に届けたつとりにいます。他の人はやめろと言いますが、じゃあ、その為何かやっつるかというも、なによ、何んにもやっつないさあ。それこういうものを投げた子供を悪いよ。けど、そういう物をそのままにしておくのも悪い。それでご飯食べてるんだから。





人生手道の下に土管があり、干のたんに、水が出入りする。ここにアミを入れば、魚が自然と入る。くすのであった。✓

# ふかんど

オ83号

1981.10.15

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六  
電話 0476-31-1666  
文責 森田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3



NHK・TVロータリー班。撮影と見張りをかねています。セイタカシギの保護において、これ程報道関係者が協力した事はない。

54. 7月

「セイタカカが駄目ならアサリがあるさ……」

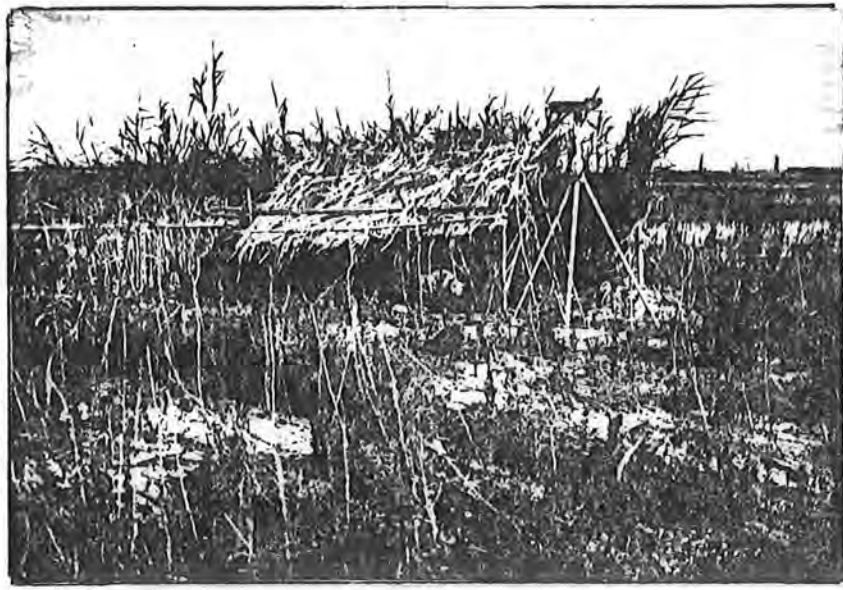
NHKのTVロータリー班の人が、ウインザリして、カフ、グッタリして、そう咳いた。

東京湾、千葉コンビナート地帯とイニに林立する石油タンク群や煙突、広し草原の埋め立て地。イニを見ながら、イニで目の前の池の中でただひたすら卵を抱くセイタカシギ。



ガラ／＼カニ／＼、夏の太陽が照りつける。太陽が東の空から登り、真上に来る。メシを食べる。西の才に太陽が落ちる。砂ほ／＼の日がある。雨の日がある。干潟を守る会や千葉支部の人が、セイタカシギを見に来て、文句を付けていく。

2回目の見張り小屋です。セイタカシギの親子は、この左、ヨシ野を越えた200mの所にいた。望遠鏡は人を見つゝ。ここからはどこから来ても、絶対見のかさないのだ。



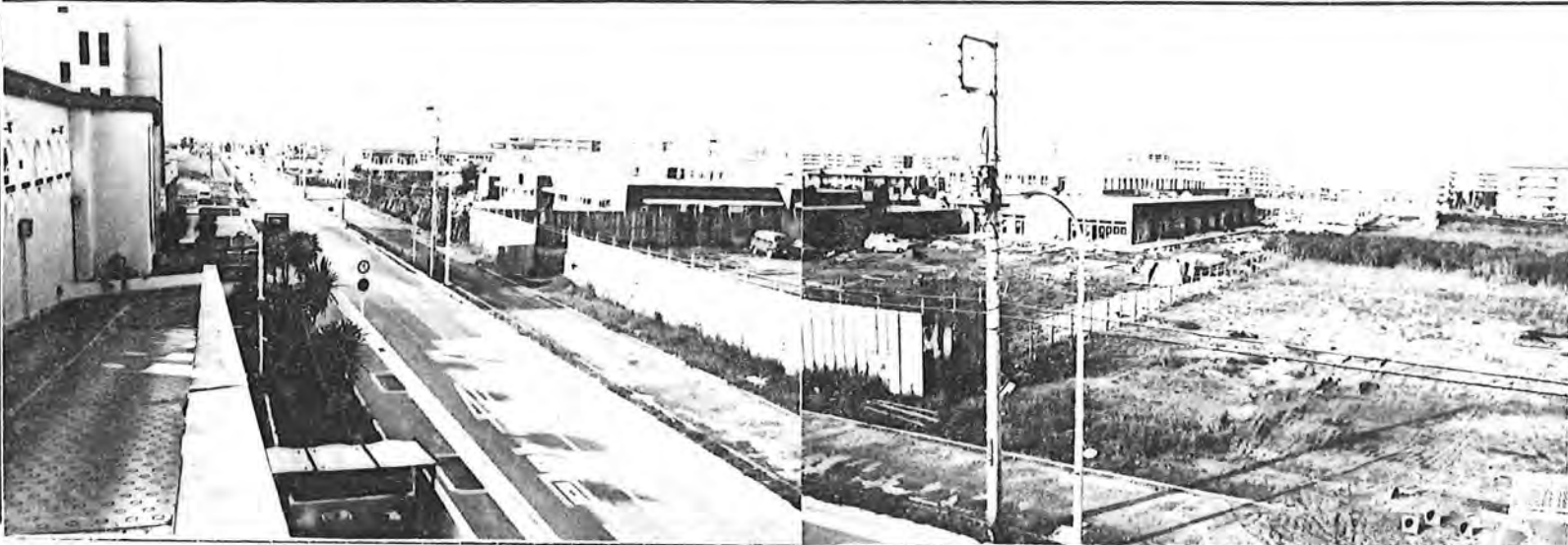
今日こそは、イニで又、今日こそはと思つて来る。そんな毎日の、埋め立て地の夏の日々だった。週刊紙もたくさん買ひ込んであり、皆さんかたっぱしから読んでしまひ、又買つてくる。そのうち読むのも飽きてしまった。車の中で眠るのも飽きてしまひ、ただ暑さでグッタリしていらただけ。そういう時に、NHKの人が言ったのである。「こう毎日、卵を抱いてつら同いとはいばっかり見てたんじゃあ、オレ産り頭がおかしくなるよあー。とこでどうですかあ森田さん、ああやって人がたくさん来るとこ見るとあ、この近くでアサリかなんか採れるとこあるんですかあ？」。私、「うーん、ありますよあ」と。「イニにあアサリでも採ることになりましたよあ、今晚のあかずにですんかあ、セイタカカが駄目なら、アサリがあるさあ、そんな手もいひやああ」。そこでみんなは、シヤベルとバケツを持って海の中にガブ／＼入って、アサリをとりに始めたのでありました。

53年 7月

お振込は千葉銀行012-54253  
谷津干潟愛護研究会

### 街づくりが進む 埋め立て地

谷津干潟の東隣りにある、習志野市秋津。中央の遠い建物所に、5年前、大きな池があった。白鳥が来た。又まよりの草原には、ヒバリやセツカの声がかまびすしく鳴き、NHK・TVロータリー班がセツカを撮影した。その記録は今も残っております。



### 埋め立て地のエビ

造成時、海底の土砂や海水とミックスしよに汲み上げられ、サンドパイプを通って、この向まで砂漠のような水溜まりの中で生きていました。7年前、千葉港で私は、シヤコ・コチ・カニの、何千という白ムクロが真夏の太陽の下に群がっているのを見た。

私は、今まで、埋め立て地のあらゆる所を歩いて来た。砂漠のような所、草原、ヨシ野、ドロくーした所、大小の水溜まりなぞいろいろ。Y先生の記録はもとより、移り変ってゆくYの姿をとらえ、残っていくのも、何かの縁があるのかも知れない。

### ゴイサギが路上で

大交通事故で死んだのです。一ヶ月程前にも、バンの幼鳥が同じ所で、同じことがありました。

埋め立て地では、決してめずらしいことではありません。変りゆく埋め立て地が織りなす、その一コマなのでしょいか。





へ丘所の人が皆くる。見ると来て、食べ後の見かうを運のひくの所にいらした。よの為、見かうで道か回った。✓

# ふかんど

オ84号

1981.10.15

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市本北方二丁目三番五十六  
電話 0476-31-6668 六六六八  
文責 森田三郎

会費年2000

創刊  
1980.6.3



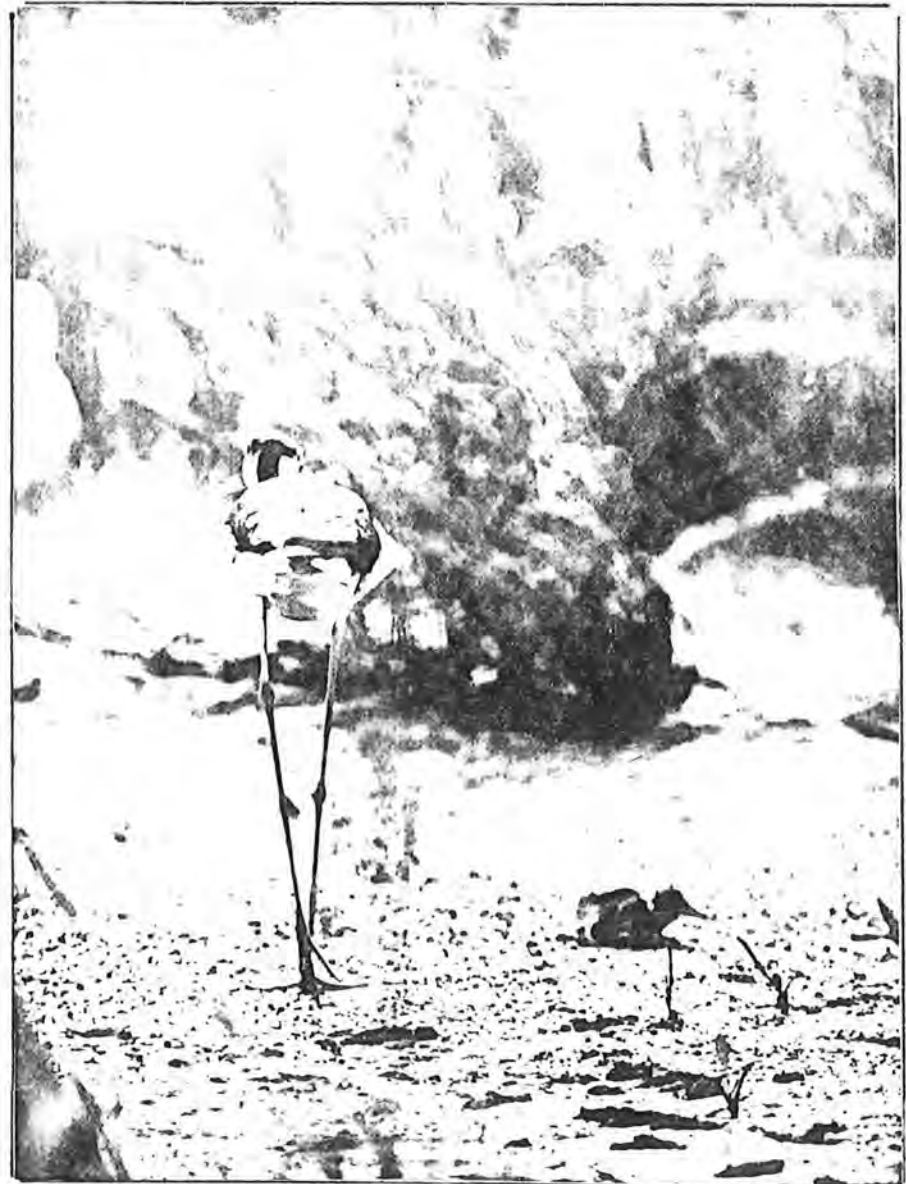
オ3回目の芦小屋。涼しいんですよ、この中は。風は前に立ててあったヨシの多小で加減した。パンシ姿ではカゼをひきます。何かあつとセイタカが鳴き、カバッと起きて見る。

53年8月?日

お互いに思ってるんじゃないの……

いつになつたら睨るやうな葉巻のセイタカシヤ。汗とホコリの夏の埋め立て地で、ただ同じ事をくり返す毎日。やけた炭がらと砂の所を、NHKの車がデコボコ道をかつたさうに走ってゆく、同じ道を毎日。

さすが五十嵐さんだ、尾の長いのがよく出さ小でいる。巢を捜した時、工事道路のブルから3m。ダンブが走ると巢がゆれるのだった。丸見えなのだ。「セイのセイッ」でスコップで草をとり、巢が見えないよ、まゆりに植えた水越びの子供が来て、カバシヤシヤツをかぶった事3回。まさか言えないものゆえ……



巢の少し手前の所に、ラジコンの飛行機を飛ばしているグループがあった。彼らと毎日来ていた。つまり、毎日お互いにお互いを見ていたわけだ。こっちはあつちを、あつちはこつちを。そんなある日のことだった。ディレクターの春見氏が彼らを見ながら言いました、「なんだああの連中なあ、ああやって毎りんすく〜来やがってえ、あのヤシラいた何やってメシ喰ってんのかなあ、〜?、まったく朝から晩までえ、ええ〜」と。すると、カメラマンの三浦氏が、「オレ達だつてソナ事言えないんじやないのあ、あつちだつてオレ達んこと思ってるよあ、あの鳥のヤシラ毎りんち来やがってえ、朝から晩まで同じ所に車止めつただけじゃねえかあ、何ッ仕事やってメシ喰ってんのかあ、てさし。すると又春見氏が苦笑すのかの如く、「そりゃさうだなあ〜おんも知れえなあ」と笑った。勿論皆んなもだ。

54年7月(幕張) 撮影写真提供 五十嵐吉夫氏

お振込は千葉銀行012-54253 谷津干潟愛護研究会

埋め立て地のゴミと、子供たちにとっては恰好の遊び場。木片や板ぎれなどを拾って来ては、小屋を作ったり遊んでいる。やぶシートがテント代り。何度も風でこわされても、又作っている。



宅地造成した所。まだ家が建っておらず草ぼうぼうです。天気の良い、温い日だまりで、赤トンボたちオコウロク姿でたくさん羽根を休めています、今日この頃です。すぐ下の草ムラでコオロギが一匹、静かに鳴っていました。



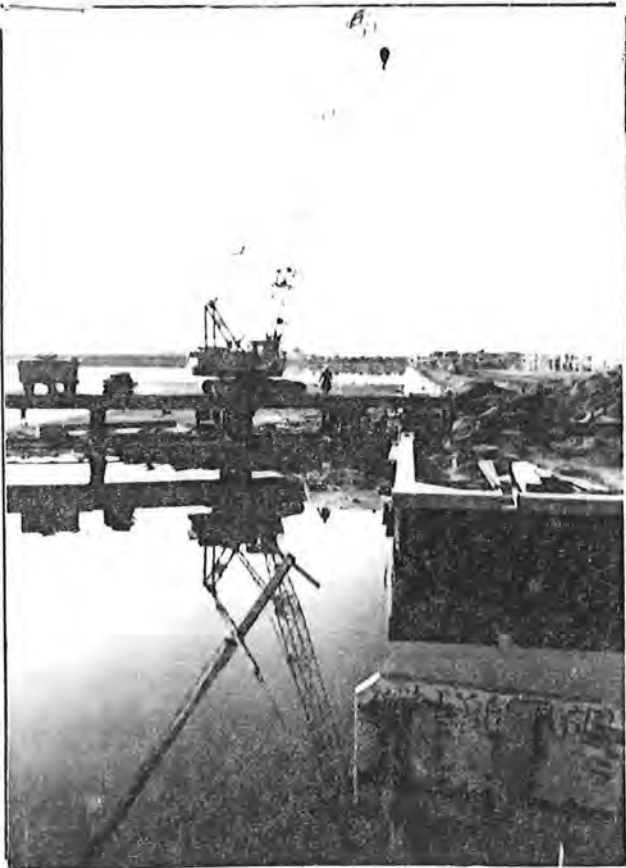
### 近代化する 谷津干潟・・・

森田はつくづく、時代の移り変わりを感じ知らさへました。この向、干潟のよういで体や顔が汚れたので、いつもの公園の水道へ行った。パニツ姿で洗っていたら、若いお母が来て、「イヤんな格好は教育上問題がありますし、ツツサ。谷津干潟も変わってしましました。」

谷津干潟のすぐそばです。近代的で、とても大きなマンションです。干潟のまわりにはここからと、こうして新しい市良が続々と転居して来ます。このウラに公園があり、私産はそこで体を洗います。



鉄橋の解体工事が行なわれました。工事用の山砂を積んだダンプカーを運ぶ為、今年2月24日に作ったものです。今月の10日頃から、とりこわーにかかり始めました。一日も早くなくなっと思って思っています。そして、まとのように静かな所にしたと思う。





私達は毎週日曜日に谷津干潟でボランティア活動をしております。集合場所は芦小屋です。

ハヨミの葉で作った舟に、トカゲ、バッタあそびはカニや魚をのせて、流水でいくのを見よう

# ふかんど

第85号

1981.10.16

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六  
 電話 0476-1-1666八  
 文責 森田三郎

会費年2000

創刊  
1980.6.3

なべ・おさみと共に  
 11 生きととの入るオレ

とにかくよくまあ、しゃべる人だった。どのようにしたらあぁやって、断えぬなくマシンガンのように「言葉のタマシ」がポニク出てくるんだろあつ。

しかし、これがこの人の仕事だと思えば、又、そうでなくては仕事にならなさんだろうなあ、と考え直しました。そしていつしか、話の内容よりも、なべ・おさみ氏の言動を、「話しを聞いていました」。氏が手の上に行っているのは、カルガモのヒナです。天んでいます。人が来たので草ムラに隠れていたところを、どうやら足でつぶされてしまったらしい。

氏の話はあちこちとぶが、全体的にちやんとまとまっていたのである。一言で言うと、「あらゆることに肉心を持っていました」という能だった。知らぬ人にも、どんく声をかけていくのである。一つくはバラクのようなでも、ちやんの一つの流れ、一つの方向に沿っている。無意識のうちに、どう出来るようになっていたのだらう。私は調査の途中で来たが、京葉港において、コロニーと呼ばるものは、この年を最後とした。



52年5月 撮影・写真提供 東康生氏(毎日新聞)

## 谷津遊園

### 買い取り検討も 県議会協議会で知事

1981.10.14

京成電鉄が習志野市の谷津遊園(旧日本住宅公団)に売却しようとする計画している問題で、周辺住民が県議会に出している「遊園地の存続をほかにしては」との請願が十三日、都市衛生常任委員会で審議された。委員の中から「県は公園が土地を

市三者で話し合いが繰り返されているが、解決しない場合、県としても買い取りを検討せざるを得ない」と、従来の姿勢をやや変える発言を行った。請願は継続審議扱いになった。

我々も、是非谷津遊園を

公園にして残して欲しいと切望して止まらぬ。取りやめを今後とも注目しましょう。

56年10月14日(朝日新聞)

市はこの案を拒否し、話し合いは行き詰まった。委員会の審議で県側は「請願は、緑地を多く残せば用地が建つてもよい」との趣旨で出されたことらえている。県の五カ年計画の中で都市公園の整備事業をすでに決めているので、買い取りは無理だとした。ところが、井手口県委員(自民)が「県からの連絡で、請願が採択されるのを恐れた京成電鉄から圧力がかった」となど暴露したため委員会は紛糾し、「知事を呼んで県の姿勢をききさせよう」となったが、委員の一部が反対したため、協議会に切り替えられ、沼田知事が出席した。同知事は「これまで県はラチ外にいたので、買い取りについて検討していないが、三者の間で決着がつかなければ、検討せざるを得ない」と述べた。

植田さんは「請願の趣旨は、もちろん遊園地全体を存続するのがベストということだ。できれば県立公園にしてほしい」との案を市に提示した。しか

# 年内にも免許申請

京葉線 県企業庁長が表明

国鉄京葉線（蘇我―西船橋―東京）のうち、西船橋以西でたまたま一方だけ海面状態となっている市川市塩浜地区については、久保田磯雄県企業庁長は「年内にも海面埋め立ての免許申請を提出したい」との意向を明らかにした。この日開かれた県議会企業常任委員会の席上で明らかにしたもので、この埋め立て作業が終了すると、同京葉線の本線側の用地手当てはすべて完了したことになる。現在検討が進められている西船橋―東京間の旅客化計画にハズミをつけることになる。

## 西船橋以西の旅客化で

# 塩浜地区(市)埋め立て

### 来春着 漁民折衝がカギ

首都圏の貨物大動脈として東京湾沿いに建設が進められている京葉線は、内房線蘇我―西船橋―品川―川崎市に至る約五十六キロ。五十三年九月、蘇我―西船橋間二千四・八キロが旅客扱いの認可を受け、同認可によると、旅客駅は西船橋、蘇我両駅のほか、新線の新若松町（船橋市）、鷺沼（習志野市）、新堀張（千葉市）、検見川（ニュータウン）（同）、新堀毛（同）、新町（同）で、工事費はホームの屋根など付属設備も含め千三百四十億円、五十八年度開業を目指して工事が進められている。

鉄道建設公団は、西船橋―都心間についても五十七年度以降に旅客化する目標を掲げているといわれ、同線全線の用地買収について

でも九九％、路線工事も九九％の進捗率を見込んでいる。ところが、この西船橋―都心間の旅客化計画が当初のスナッシュルよりも遅れ合いによる関係で、民との話し合いが進まないことなどから、市川市塩浜地区（一・八キロ）だけが海面のまま、放置されていた。今回、この地先の海岸埋め立ての免許申請を提出することになったのは、さる七月に国鉄と鉄道建設公団の間で、西船橋―新砂町間（十六・七キロ）を五十二年に旅客線として開業することで合意。さらに新砂町―東京駅間（七・六キロ）の都心乗り入れ部分の建設の協議にはいるなど、具体化の動きが出てきたため。

県企業庁としては、年内にも同

1981.10.14  
(千葉日報)

### 渡り鳥の便り

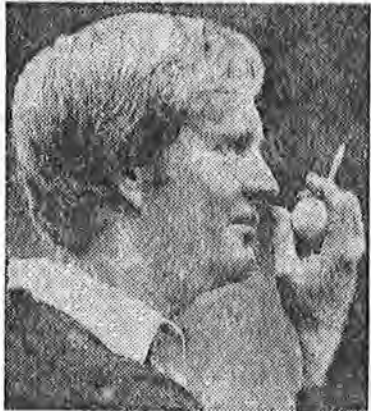
埋め立て地には早くも冬の使者、コミミズクがヤッパ来ました。12日に、五十嵐氏・長塚氏・高木君が、足にはえつゝ毛までじっくり見たとのことでした。

## くろくろん

金田武明

手の指が皆、同様な感条件で戦っているのだ。その悪条件を前にして、さて

### いいわけは禁物



## 自由競争

ター・システムに頼ろうと企業家が考えたら、それは苦難に通ずる道である」とキブンス、ラッパ氏は警告する。自ら弱体化に拍車をかけるだけだと極言している。例えば日本からのテレビ輸出が日本の自主規制になっている例がそれに近い。

低水準で安住してしまふ。競争相手の日本もドイツは、テレビがメなる別のものを、と開発意欲を燃やす。米国の規格はますます広がる。やがて米国テレビ業界は、日本やドイツではなく、競争相手とする立場に落ちる。そこでまた、同じくではないわけ……。これはまさに悪循環。単なる価格競争、あるいは値段のドロ試合で、技術とか味とかの創造的競争ではない。消費者はもう束縛するワケのない自由な競争こそ発展の原動力なのだ。

元来、競争心こそが今日のデパート、今日のロイト、今日の米国を築いた主因ではなかったのか。輸入制りの当てる盾に逃げかくれる米國は、米国ではないが競争心で、プロゴルフを面白くする。たまたま一つの道なんだと強調する。

ニクラスは、日本での試合に参加する時「招待エキシビジョンの場合には別、は半ヤンティを辞退する。」「その金があるなら資金を増やしてもらおう。そして皆で公平に争おう」という。キヤラントイをもちえは競争心の切っ先が鈍るのだ。そして「純正な競争心こそ、プロゴルフを面白くする。たまたま一つの道なんだと強調する。

競争を大切にするニクラス (A.P)

最近のフォーチュン誌に「What it takes to meet the Japanese challenge. 日本の競戦にどう対処すべきか」というテーマの対談がのこっていた。ウイリアム・キブンス氏とウイリアム・ラッパ氏というボストン・コンサルティング・グループ出身の日本のエキスパートが、米國産業界に警告する形で話が進められていた。

「米國産業界は、往々にてくましい競争心をもっているのだ。そして「人は「米國よいいわけをしてはならない」と主張する。他國の低賃金攻勢、石油、強い労働力……と米國産業弱体化のいいわけならいへばある。それを認めないで、さうとう対処したらいかに、一歩踏み出すのが企業家の使命であるはずだ。

ジャック・ニクラス (A.P) の「いいわけを考へる時は、集中力を失ったのだ」という言葉は同氏の警告と本質的に同じである。コルフでもいいわけは無難にある。風が、雨が、顧客が、カメラが、売れたクリンが、不眠が……おれをタシにした。だが競争相

どちらに対処すべきかと創造力を發揮する者には勝機がなくなる。「悪条件こそ飛躍のチャンス」とは、日本で有名な松下精神である。米國企業が悪条件を数えあげ、いいわけに終始するだけでは進歩は望めない。

いいわけだけならまだましだ。「安易な輸入制り当て制(クォーリティー)は起らない。そこで技術は

輸入規制に加え、米國內のテレビ需要が増大し、米國テレビ業界は大変気がいい。「そのみせがけの繁栄がいけない。彼らはここで、さらに深みにはまっていく危険にさらされているのだ」と同氏は指摘する。

一時の繁栄のために、技術革新意欲は起らない。そこで技術は

競争を大切にするニクラス (A.P) の「いいわけを考へる時は、集中力を失ったのだ」という言葉は同氏の警告と本質的に同じである。コルフでもいいわけは無難にある。風が、雨が、顧客が、カメラが、売れたクリンが、不眠が……おれをタシにした。だが競争相

54年8月21日 (日本経済新聞) 連載中

「ぐりーん・ヤンティは、私に興味をそとって読む記事の一つである。その為、ずいぶん切り抜きが集まっちゃった。もちろん私はゴルフをやるような身分ではない。又、するつもりもない。メンタルなところに、少なからず興味があったからである。「ゴルフと心理」なんて本は、私が愛読した本である。関心のある人はどうぞ。



人云く干潟の所々に、杭が立っていた。その下はくぼんで水がたまり海草とあった。そこに、

# ふかんど

第86号

1981.10.16

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市本北方二丁目三五番八  
 電話 0476-1-6666  
 支責 森田 三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3

## 転機

その日、私は志水左。それは、54年5月、それを月末に近づき、ある暑い日のことだった。

干潟のようだから、テーブルとベニチの作成、そして千葉県・企業庁との対立。話し合いによる結末まで約5ヶ月間、トラブルが続いた。



三者会議がすんでから、数日後、私は干潟へ行った。五月晴れの、すばらしい日だった。草原は、燃えるような、目にしみ入るような緑だった。その時に私が目にしたのが、伊真の如き光景だった。ただ思った、思ったのである。「ああ、これはもう、オレのものではない」と。今まで、私は、テーブルとベニチ、それに

「役に立とう」、「自分自身をし、あるものの為に役立てるモノ」としよう、それがそうだった。引張って来た自分から、これからは、あるものを、後から「押しつけて人間に自分にしたろう」と思った。自分の思っても、考えも、すべて「あるものの為に役立てる、手段にしよう」と思った。森田三郎という人間に、「役に立つかどうかに」ではない。森田三郎という人間が、「どのようしたら役に立つか」という、すなわち、それなのだ。役に立つかどうか、それを決めるのは、私によらずして、あるものによりてなのだ。決めるのではなく、決まるのだ。

そう思い至った時、私は、急にすかしくなってきた。心の重荷がとれ私わかれたようだった。心が晴ればれとした。「オレは今まで、ずんずんまらなり、余計なものをしていこんで来たんだなあ、いい」と。私かスケくの、流れの良し、管に



「引張って来た、そんな心境だった。それが、この時は、テーブルとベニチ以後は、そうではなく、たのであ。何故か、私は知らない。



ある地方を旅の途中、母親たちとの頃の子供の問題や非行少年のことなど話題にする集まりに出た。そこへ出席していたその地の少年鑑別所の所長さんがこんな題目の発言をしたのが、とても印象的だった。十七歳になる収容少年がある時熱を出した。年配の女性職員が様子を見てやり、休憩室に静かにさせ、オオ

### 素肌の心の出会い

森田 宗一  
 本は社会全体が、ひどい情緒の貧困に陥り、心の危機に陥っているように、非行の芽も思いがけないところにあるように思われる。人間関係の立ち直しが必要な。人間はやっぱり愛(素肌のままでの心)の出会い(また)をたもとして生きている生きている。

(出所不明)



お目見えした谷津干潟野鳥の通信箱—習志野市谷津で

### 「谷津干潟」に野鳥の通信箱

#### 「守る会」が設置

東京湾奥部に残された数少ない野鳥の楽園「谷津干潟」に習志野市谷津に「野鳥の通信箱」が一日お目見えした。

この干潟の保護運動を続けていく「干潟を守る会」(大沢清代志が野鳥観察に訪れた人たちに、その感想などを書いてもらおうと古材を使って設置した。中には大学ノート、ボールペンが備えてあるほか、「守る会」が発

行っている子ども向けの会報「しるし」も置いてある。

「守る会」では以前にもこうした通信箱を作ったが、壊されてしまった。今回、再び設置することにしたのは、最近見学者が増え、週末には二百人を超えるほどになったため、保護運動のPRもねらっている。また、「守る会」は、保護する上、日に会員が野鳥の観察ガイドをすることも検討している。会員の森田三郎さん(53)は「野鳥に関心のある方なら、何を書いても結構。質問にも回答します」と、多数の執筆を歓迎している。

自然、緑地の獲得のため、テーブルとベンチを撤去するかしらないかで、益んにやり合っていたりした時だった。やはりこども、流木から出来ている。考えたのは、一日のすべてが終り、フロに入らな心身とどにゆったりとくつろいでいた時の、まろ

### 体質改善が見られぬ

太平洋を越えて一か月の滞在予定で日本に向かった飛行機が、機中から低空に墜落し、乗客の感傷は、長い間の海外生活者の孤獨・郷愁と苦悶を一時にして流れてくれた。渡米以来二十年、ふるえるような喜びのなかに目に見える日本の風物は、近代化された街にみえざる活力、国民のふくよかさで目をみはらせぬ。しかし、その一方、すべてが余りにも平和ムードで色どられ、二十年前には想像もつかなかった変化は、何か平穏を失わせるような、新しい不安を感ぜさせる。

二九五〇年代、現代美術の動向と名づけられた展覧会を見た。カタログに記されていたように、戦争が残した深い精神的軌跡状態の中で、若い作家達の活動エネルギーが爆発した時代である。会場に並んでいる当時の具象派の人達の活躍ぶりに昔を思い返しても、あれだけの作品を発表した現代美術への挑戦には、保守的な変革をもたらすような期待を感じたものだった。しかしあれから三十年、今日とだけ芸術的発展を見たか、思わず振り返らざるを得ない戸惑いを感じる。同じ日に見て回った団体展、多くの画廊の作品展が訴えているものは何であるか。現代の日本美術界は何を自覚しているのだろうか。何も心に残らない作風に不満を感じた。

## 20年ぶりにみる

# 日本の現代美術



しもた おしち 下田 治

## 模倣強く創造がない 孤高の争覇忘れたのか

変わって来ている。創作者の心も変わって当然だろう。創造の世界は、作家個人の観念の問題であらう。しかし、久しぶりに見た日本現代作家たちの作品の多くは徒然に、模倣が強く、荒々しい芸術性乏しい。経済発展を支えたた。残念ながら、日本の現代美術

変わって来ている。創作者の心も変わって当然だろう。創造の世界は、作家個人の観念の問題であらう。しかし、久しぶりに見た日本現代作家たちの作品の多くは徒然に、模倣が強く、荒々しい芸術性乏しい。経済発展を支えたた。残念ながら、日本の現代美術

やかなコーヒーを飲んでいたりした時だった。私は、従来、なぜか、こういふひと時を大切にしていたし、そう思っていた。小一ぎと、物事がすけて見えるのだ。精神的クリーナーである。物事や、自他共、もろくのこのなごのにゴリガ、消えていくのだ。一回のうち、一回ぐらひはこういう時があった方がいいと思っていた。「今日一日も、いっんな事があった、けれども、良くも悪くも、とうみんな終わったのだ、今日も今日も、みんなして終りしよう」と。

創造力のこと、私が最も強く内心あることの一つだ。それと大きく、長年、私は私なりに、それと関係する本を、他のどのよりも多く読んできた。とより私は、それと関係する知識を身に付けてきたわけではな、職業としていっているわけはない。ただ、何となく、いわゆる「魅きつけられた」のである。

谷津干潟の保存運動に加わった。いっんな団体に援いた。その時強く感じたのが、創造力の欠陥と、いっんなことであった。



目立つ改良生産主義 エコール・ド・パリに続くニュー・イヨーク・スクールは戦後世界の美術運動の中心として君臨し、日本美術界にも多くの影響を与えた。残念ながら、日本の現代美術



# 今度は10m位のものを作ろう!

53.4.10 (毎日新聞)

人千端で、その昔、父の時代、潮が引いたあとで、陸のふから飛行機を引いてきて、滑走させたの事。

# ふかんど

第87号

1981.10.17

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市本北方二丁目三五五十六  
 電話 0476-31-1666  
 文責 森田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3

## 谷津干潟の思い出



## 漁民、植物、遊ぶ子供たち...

## 絵で保護訴える

市川の森田さん

「赤銅色の子供たちが駆け回っていた昔の谷津干潟の自然を、今の子供たちにも知らせよう」と、船橋市に生まれ育った青年が、半年がかりでつくったイラスト「干潟の思い出」を描いた。海とどもに生きる漁民たち、動物や植物、子供たちの遊びをこまごまと紹介した絵は、百七十カット。「絵は全くの素人」の青年だが、ユネスコ自然遺産の中に自然を愛する情緒があらわれている。絵のコピーを国や県、教育関係者に配って谷津干潟の保護を訴えるという。

青年は市川市本北方二丁目の三男の森田さん。少年時代、船橋市宮本町で生まれ育ち、宮本小から宮本中へ。そのころの遊び場は、澄み切った空、緑の松林、遠浅の谷津干潟と広がる東京湾だった。

漁師の船はいつも魚でいっぱい。カニ網や竝立(すだて)でにぎわった。はたして海に入ると、魚群の中から魚が、干潟でカレイやウナギが揺る揺るしている。埋り場、灯台、森田さんには忘れられない思い出がある。

「昔の谷津干潟はよかった。子供の夢をささぐ絵がいっぱい」

六、新聞販売店従業員、森田三郎

市川市に転居し、新聞販売店に勤めた四十一年ころから、海は工場用地として埋め立てられた。そして谷津干潟が危機にひんしているという新聞記事の写真に、見覚えのあるクイを見つけた。これがきっかけで、森田さんは「千葉の干潟を守る会」(大浜漁会長、七百八人)に入会。自分でも谷津干潟愛護研究会をつくった。

広さ五〇〇の谷津干潟はシギ、チドリ、カモなど四、五十種の野鳥が住む楽園。四月中旬から周囲の草むらにタマゴを産む鳥たちの保護や観察記録づくりが、森田さんの仕事。勤めの合間に干潟に通っている。

イラストを描くきっかけは、五十一年から始まった東京湾岸道路の建設工事。干潟の三分の一が埋め立てられた。「少年の非行、自殺などの問題解決は自然の回復にある」という教育者の話を聞き、自分の人格形成の場が谷津の海だったことを思い出したからだ。

イラストは横四、縦一、けのり大作。エンピツで下絵を描き、サインペンで仕上げた。沼から田んぼへ水をくみ上げる水車、干潟のカレイ突き、地引網などが生き生きと描かれている。

コピーした絵はすでに郵送済み。母校宮本小では児童の教材として百周年記念校史にも収められている。

森田さんは「谷津干潟を残す方法として、また昔の海を知ってもらいたくて記憶をたづねた。でも、赤銅色の少年たちの姿が東京湾では見られないかと思うと、残念だ」と話している。



森田さん

まず、車史、を知ってどうおうと思っただ。殆んどは、私の体験したものであり、ごく一部は父から、又土地の人から谷津干潟の保存問題が、一段落したら本格的なものを作成する考えである。今はただ残すことで足りる。書いてる中で一番大きなものは、中10m長さ3.7mある。将来、ぬき込みや調査によって、一つでも多くのものを拾い上げ、画き表わりたい。埋もれてしまったもの、忘れられようとしてしまったもの、それらすべてを記録し、残したいのだ。

それか、どんな価値があるか、何の為に、そういうことは



いっさに向うまじ。すべてのほか、いっさとなんかは、みんな後世にまかせればよいと思っただ。誰かがやらねばならぬ。いや、私は考えたり。私かやらない。出来るだけ早く、今日明日にでも着手したい。その時を、その日が来ることを、私は今から切望している。

私は、ナチュラリストでもなく、自然愛好家やバードウオッチャーでもない。運動家でも、何かの専門的知識や特技のある人向でもない。市井の、ごくふつうの一市民である。干潟の思い出を画き残すこと、それは私にとって、前年の如きものあこなしに、よって、いささかたりと微動だにしない。

私は本を読むことが大好きだった。今でも  
そうである。おもしろいからだ。

伝記などのなどは好んで読んできた。その  
人が、どんな分野の人であるかということ  
は、余り関係がなかった。淡々と書いたと  
のが好きだった。他の人が書いたらそのより  
も、自叙伝の文を好んだ。私からみて、文  
かうまいとか下手とかいうものは、ただそ  
う思うだけで、全くと言ってよいほど、気  
にととめなかった。

どう、ふた昔ほど前にもなるが、昼は日  
立に勤め、夜は船高の定時制に通うとい  
う、そんな時代があった。その頃からは、本  
を読むことが大好きだった。本なりであっ  
たこと、どんな所に行ってもなかった。  
うれしかった。読んでいるのが、楽しか

った。そういう時の私は、「幸せ」だと思  
う。思うというのは、今からみてそう思  
うのであつた。当時私が、「オレの幸せは、本を  
読むことだ」と、別に、何ら意識して  
いたわけではなかったのである。

朝7時前に家を出て、夕6時30分まで働  
き、急いで千や親を洗い、着がえして学校  
に行った。9時まで授業をして、家に帰  
るのが10時前後だった。フロントに入  
るの10時半頃。それから午前2時頃まで  
読んだ。毎日そんな生活だった。父や母  
が、私のことを心配して下さう、「三郎、早  
く帰ろ、体こわすぞよ、何時だと思  
つてんだ」と、やはり毎日だった。青春  
のまっ只中の、燃ゆるか如き

の読書欲、「ああ、どうしてこのオレに  
時間がないんだ」と、くやう、本当にく  
やう、杖に涙を落したことも、何度とあ  
った。

# 私の選んだ道

= 10 =

「私の選んだ道」という題で原稿を  
依頼されたものの、正直なところ大變  
とまどっている。  
住友銀行に入行してから四十数年に  
なるが、京大を卒業するとき、なぜ銀  
行を選んだのか、またなぜ住友銀行  
を選んだのか、今その動機を考えて  
も実は定かでないからである。しい  
てあげれば、その前年遊学が三井に  
入ったので、自分は住友に、そして住  
友の中では叔父が住む銀行(もちろん  
住友銀行ではなかったが)の大坂支店  
長をしていたので、銀行に行きたく  
いう程度の、まことに他意のない動機  
だったように思う。

ラグビーが志をタックル

私は頭取就任以来、数多くの新聞や  
雑誌の人物評で、私の人間形成に関し  
て必ずラグビーとの関係を論議される  
のに、実のところいささか閉口してい  
る。なるほど、私は神戸二中のとき  
神戸の外人クラブと京大のラグビー  
の対抗戦をまだ観戦して、このイ  
ギリス生まれのスポーツが大好きにな  
った。そのため、三歳、京大を通じて  
六年間ラグビーに熱中して、苦しい練  
習や試合をやりおぼせて、また幸運  
にも最後の二年間、京大が好成績を挙  
げて、私の学生生活の楽しい思い出に  
なっている。ラグビーはたしかに私が  
学生生活の一部として選んだ道だが、  
その後の人生にそれほど大きな影響が

あったとは思わない。  
今はプロフェッショナルという道が  
ひろがったからちょっと変わったかもし  
れないが、当時のスポーツマンは嗜好  
きたからだったで、まさか将来の版  
の支配にしようとか、社会に出てから  
得たから、など考えていた者は、も  
れこそ一人もいなかったらう。私も  
全く好きだからやめられなかったし、  
我慢して最後まで続けただけである。  
そんなころ、ただ一度だけ人生の進

## 試練に途中棄権しない

住友銀行頭取 磯田 一郎



路について主体的な選択を試みた時が  
ある。それがまたラグビーから離れよ  
うとしたのだから皮肉なものである。  
大学二年の春、私は選任司法官試験  
を受けて裁判官になろうと志をたて  
た。私の父は私が中学二年の時にた  
ったが、海軍軍人で一人は正義感が  
強く、私にも強い影響を残している。  
一方で自分が社会性はあまりないとい  
うことは十分自覚していた。そのうえ、  
法律科目の成績もそこそこ、教授から  
も大学に合格してもそこそこと遠慮さ  
れてもいた。そんな理由から、とりあ  
えず司法官試験を受けようと思っ  
て、キャプテンに申し出て、八潮の山奥の  
百姓家にもって猛勉強にとりかか

る実情であつたと思ふ。  
た。しかし、この志も、ラグビー部の  
キャプテンからの再々にわたる復讐感  
謂と、あくまで好きでラグビーへの未  
練も断ち切れず、ついに半年あまりで  
断念してしまつた。つまり二年のラグ  
ビーのシーズンが深まったころ、グラ  
ウンドに戻つてしまつたのである。  
やせ我慢、もて余すことも  
個人の資質、能力あるいは性格など  
については、いまだ十分に見極めもつ  
かず、なおその生成過程にある十歳  
のころに、長い将来を託する人生設計  
に確信をもつて取り組むことなど、と  
てもできないことだというのが、むし

その過程でこそ、全人的な強い力  
が内心に培養されていく、と確信する  
からである。逆境こそ成長のための跳  
躍台であり、順境こそかえって成心し  
なければならぬ。私も銀行に入つて  
からいろいろの経験をした。中でも調  
査部に在籍した十一年間はもっとも充  
実した期間であつたと考えている。  
しごかれ、精進に力を蓄積  
今でもそうであるが、当時の調査部  
にはとりわけ勉強家が多かつた。た  
勉強する材料は無尽蔵にあり、また多  
くの企業を経営者にも目目にかかれた  
し、いろいろ示唆に富む話をうかが  
う事実に対してである。若い調査に期  
待するのはこの気迫である。

当の人物が、どんな人間かという判断はさておき、お茶を飲  
みながら、あたくしを身の上話を聞くように読む。



へぼくは見えてないけど、ハマグリが分泌液を出して水に溶け、潮にのって旅をすまんだって。よろ土地の人から聞きました。✓

# ふかんど

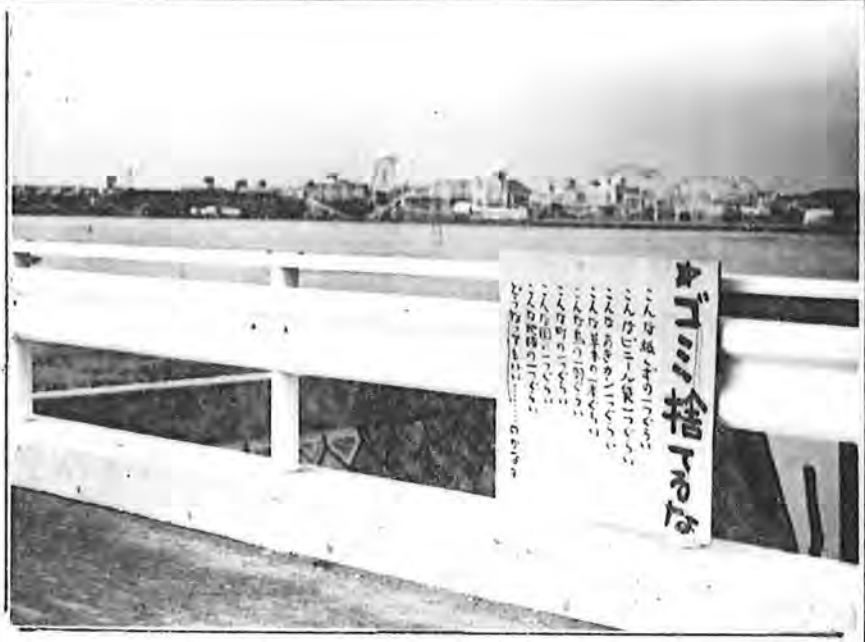
第88号

1981.10.17

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六  
電話 0476-16668  
文責 森田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3



東水路が、谷津干潟に出た所。この橋ができてから、干潟に来る人が急に少えました。

## 谷津干潟の看板

\* \* \* \* \*

橋ができれば橋に、柵ができれば今度は又柵に作っていつてしまつ。

ソウです皆さん、そこにあるものなら、使えるものがあつたら、何でもかんでも利用していくのです。

ところで、谷津干潟には、いったい何本ぐらゐの看板があるのだろうか。とし皆さんの中に興味があつたら、時間があつたら数えて下さ。教えて下さい。何しろ、看板を作った当人産ですら、皆目わからなひんですよ。企業庁は、迷惑そうな顔をしていきますが、冗談いやない。申し訳し程度の看板を立てただけで、何でゴミがなくなるのですか？。それに、企業庁自身、工事したあと、その辺に、

今まで、水路には何もなかったのですが、落ちると危いので、企業庁が下の様なサクを作った。



これからと、看板をどんく作っていきま。そのうち、皆さんは、看板をかき分けて鳥と見るようになるかも知れません。

谷津干潟がきれいなればいいのですから。

今年の、今までどうしてきた限りでは、去年にくらべて、はるかにゴミの量が少なくなっています。としかしたら、いくらかでき、「看板のキキメ」があつたのでしょうか？。又、それと共に、清掃している私たちに、ゴミ袋を持ってワロく歩きまわってソの姿に、多少は気がとがめたのかと知れません。いゝことです、結構なことです、どんどんとがめて下さい。としとかくにも私達は、





# ふかんど

第89号

1981.10.18

谷津干潟愛護研究会  
 市川市本北方二丁目三五番六  
 〒272 電話 0476-1-1666  
 文責 森田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3

## 木々の梢はヤンマのお宿

毎年、夏になると、木の梢にはたくさん  
 のヤンマたちがとまって、羽根を休めてい  
 ました。どこから飛んで来て、どうして梢  
 にとまるのか、誰と知りませんでした。後  
 から――やって来たのでした。

ヤンマには、オンシヨ・ドロ  
 ボー・ヒラキがいた。でど、み  
 んなそれぞれ、とまる所が違っ  
 ていました。オンシヨは低い所  
 が好きでした。ドロボーは、  
 高い所にと低い所にとまり  
 ました。ヒラキは、とんがっ  
 た所や、てっぺんが好きでし  
 ました。



一匹だけでなく、つがいのまま  
 でとたくさんとまっていた。つかい  
 にも、いろいろありました。ホカケ、ナン  
 が、ジョウナンガ、大ナンかと、よんなふ  
 うに呼ばれていました。時々、四匹と五匹  
 とつながったまんまとまっていたのでした  
 。けむじむじ、天気が悪くって、雨や風の日  
 にはやつつこなかつた。

ぼくたち子供は、トリモチ竿ヤクモの巣  
 ・アミでとってつかまえた。木の下に行っ  
 て、上ばかり見ていたので、首が痛くなっ  
 てしまふのです。血所のある子供は、ヤン

マヤセミトリが大好きで、しよちゅう上ばかり  
 見上げていた為に、いつのまにか自然と、首  
 と頭が上向きになってしまったのがいました。  
 「おばさあーん、サブちゃんいるっつ、しよ、  
 よくマーちゃんがぼくを呼ぶにきた。かき大将  
 のマーちゃんも、母の前では、ちゃん、を付け  
 るのでした。コウラーん、行くべえ、どうええ  
 ぺ来てんべえしよ、ワッパ〜につ  
 いていった、ぼくは、マーちゃん  
 から、ヤンマの見つけえ、つかまえ  
 え、トリモチの使ひえや長くもたせ  
 る方法を教わった。又、クモの巣は  
 朝のやつがよくて、時々口に水をぶ  
 くんで、「プーッ」と霧ふ吹きかけ  
 ると長持ちし、しまっておく時は日  
 かげにすることなど、そのほかま  
 だいっぱい〜。

木々の梢にとまっていたヤンマは、中  
 々見つけにくいのだ。葉のしげみと葉  
 の色、枝と梢がたくさんあること、ヤンマの体  
 がイボと似ていること、羽根はすき透っていたり  
 ため、胴体しか殆んど見わけがつかないことな  
 らだ。サブのいかあ、あんまり木の下か  
 ら見てとだめだかんあ。すよつと離れたよあ  
 し、よんかじよあ、まっすぐばっかり見ても  
 わかんなくてなあ、よこの方から見るとよあ  
 し、わかん時があんだかんあ〜しよ。

とり終っても少しすると、又とまっていた。  
 木の下で、空と梢を見ながら待っていた子供は、

人モズが鳴く榎の葉みが、すっきり、ツイ〜ととび交う赤トシボの群におおわれ〜してしま〜  
 た。✓



クロマニヨン人の画いた谷津干潟

森田 三郎

見てわかれば、それで良い。知りやすく、全体のイメージがわかったら、この絵を画いた私の目的は十分達した。動・植物のことは殆ど知らない。絵を習ったことはない。画き方も知らないし、日常画くこともない。たくさんの虫や魚をつかまえたり殺したりしたが、調査や観察はしたことがありません。自然保護や鳥のことを私に聞いても、私は答えることが出来ません。生物の名前も生態も知らないの、いつも肩身のせまい思いをしています。だから本当は、こういう絵を画く資格みたいなものは何も無いのです。

この絵は図鑑でもなく、見るためのものではありません。すべて欠点だらけですし、大きさもでたらめ。識別の用もなさないし、見るに堪えるものではありません。生きものは全部と言っていいほど本を見ながら画いた。つまり、あちこちから少しづつ、皆んなカッ

バラって来て画いたものばかりです。私のものは、いくつか散らばって画いてある、子供たちが遊んでいる所だけなのです。私としてはそういう所をもっとたくさん画きたかった。画いていた時も、今もそう思っています。そして、そのまわりに昆虫や魚、鳥やカニなどを画きたかったのです。そうすれば、自然保護の人たちの思惑や目を気にしないですむと思ひ。でもいつかきっと、そのウラミを絵で晴らす時が来るでしょう。

谷津干潟自然教育がどんなものかを、知ってもらいたい、わかってもらいたい。どうしたらいいのか、そのために何か少しでも役に立つものはないか、そんなたった一つの心ばかりにこれを画きました。

気に人らな人は、私よりも力があるので、その人自ら画いて下さい。野鳥の会の人ならば、みんな私よりも能力があるので、私は保護のために役立てばそれでいいのです。これからも、内には卑屈、外には厚顔

無恥をあらわにしてやって行くかも知れません。ヨロシク。

【解説】

森田さんが、またスゴイ大絵巻を画きました(216×85cm; 1頁に一部拡大)。

幕張沖から京葉港に至る広大な埋立地をたった一人で駆けめぐって、シロチドリとコアジサシの繁殖地図をつくり上げたあの森田さんを御存知の方も多いでしょう(支部報No.19、「野鳥」昨年4月号)。ところが昨年の6月、森田さんは交通事故に遇って、3年目の調査は不幸にも挫折してしまつたのです。病床に臥した無念さと、谷津干潟にかけた執念が、この傑作を生み育てたのでしよう。

新聞配達をしながら繁殖地図を完成した森田さんを見ていると、ナットウ売りをしながら旧石器人遺跡を発見した相沢忠洋さんとはこんな方ではないかと想われます。森田さんの絵の中に活躍する「谷津干潟の小さな野鳥

人」たちは、彼の魂が発見した古代人、いや、それは「自然保護のクロマニヨン人」を自称する生きた彼の分身なのでしょう。

谷津干潟自然教育園の実現のために、この大壁画を大いに活用して、森田さんの情熱をぜひ生かしたいものです。

(編集部)





△広い千潟の見える大きな榎の上から見ると、農家のワラビき家があつて、今頃、あつちこつちで、だつ

# ふかんど

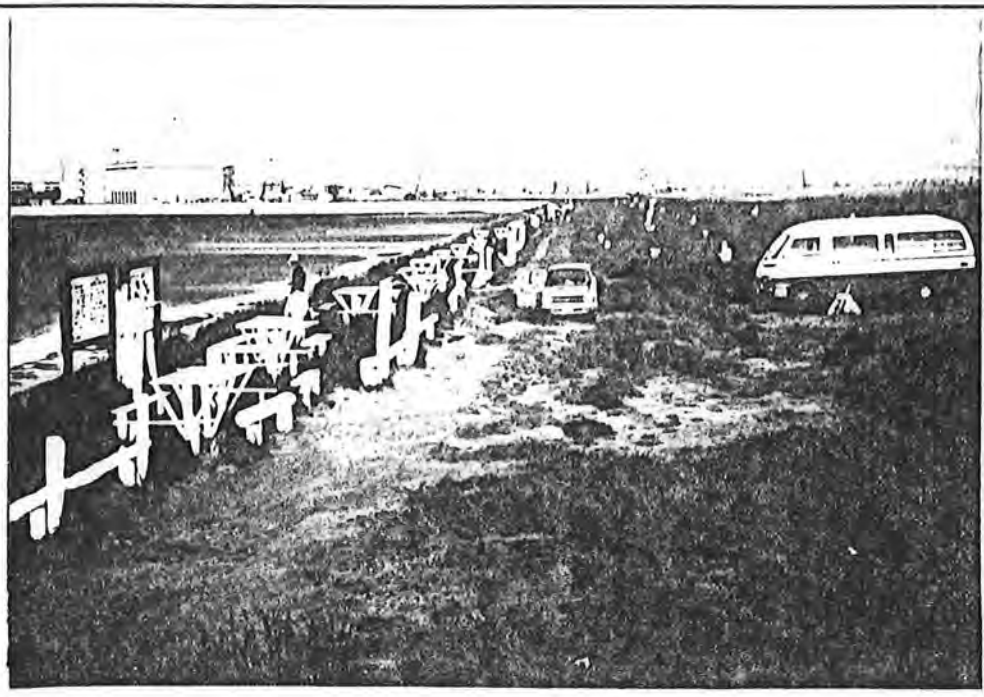
第90号

1981.10.19

谷津千潟愛護研究会  
 〒212 市川市本北方二丁目三五〇六  
 電話 〇四三一六六一六六八  
 文責 森田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3



近いうち、地下の生物の霊の為、お墓を作ろうよ。

## わあー、霊園墓地みたい

ちよっとした、公園みたいでしょ。こゝろテーブルとベンチの大群は、もとはみんな、流木だったんです。

ゴミだなんて、じゃま物あつかいはかりさへ来てたけれど、こうして、ちよっと手を加えてやれば、やはりイイなりに役立ってく小るといふもの。

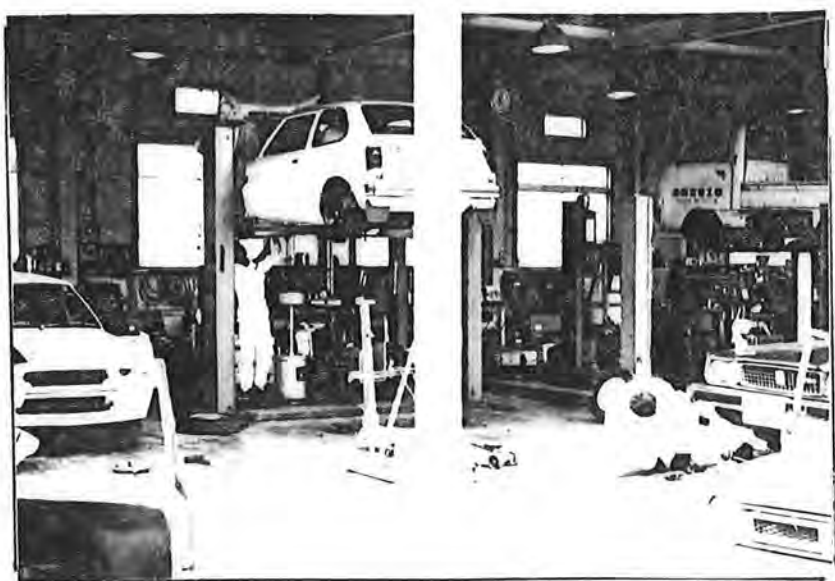
千葉の千潟を守る会と千葉県野鳥の会の協力を得て、愛護研究会・環境美化委員会が中心となって作りました。

その後、いつに多くの市民が、とはヤコレを当り前のものとして、常日頃より利用しております。

こゝ榎の音が聞こえました。V

でもねえ、本当のことを言つと、これを作つていた当時の私は、大変だったんですよ。労災保険を使つて生活してました。借金30数万ありました。金員が脚に入らなかり、通院してありました。そんで、新園に、私の名前がドカシノ〜と出たんです。仕事でギリギリの人間が、こんな事できるはずがなりでしょう。としバレて、突っ込まれたら、お金をストップしちゃうんですからねえ。前内に県・企業庁、後々に労働基準センター所。内心は、いつに心細かったんですよあー。ここで、どうしてと記しておかゆばならぬいことがあります。とし、前の年のセイタカシヤの時、京葉ホシタの小林大光さんから、偶然にも、車をいただくことかなかったら、今頃、テーブルとベンチはおるか、3haの草原すらなかったと思います。勿論、小林さんは、そんなこと、夢にも思つてないでしょうけれど。私には、足が何となくなつた。

京  
 私がいつもお世話になつている、  
 京葉ホシタです。よろしく！  
 繁栄発展を心より祈ります。





右の字真のとは違つて、尾の所がみどり色がかかつている。  
10月の末でも、天気の良い、温  
い日には元気でとかまわつていま  
す。ヤホでも、気温がひくくなっ  
てくると、だんだん元気がなくな  
り、こうして、日なたに出て来て  
休んでいて日が多くなりました。



全身が、ラズ茶  
色です。  
私は、バッタ類  
は、全くと言って  
よい程調べていま  
せんが、ヤホでも  
10種類以上がいま  
した。草ムラにい  
っぱいいます。チ  
ョウゲ、ンボウガこ  
れを食べている。

夏を謳歌していた、  
たくさんの昆虫類と、  
日を追って深まりゆく  
秋の埋め立て地では、  
だんだんと体の動きが  
にぶなつてきました。  
セイタカアワダチソ  
ウと、すっかり黄色い  
花をつけました。

今年と、赤トン  
ボの大編隊が見ら  
れませんでした。  
ヤホでも、年々  
その数は減つて来  
ております。埋め  
立て地の、草原や  
ヨシ野、大小の池  
が、どんどんなく  
なつてきているか  
らです。



アブかな、ハチかな、すみませ  
んわからなりですよ。日なたぼっ  
こをして、ちや足をすり合わせて  
いました。ちやうど、挿んでいら  
みたかったです。あと、いくらとし  
ないうちに、死んでいってしまっ  
たのでしよう。己が運命の念仏をこ  
らえているのでしようか。





へかき大將のマー

はぼくに教えてく休た。魚は、水草のある所、余り流水なつ所、ヨシのある所、

# ふかんど

号91号

1981.10.19

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市北方二丁目三五番六  
電話 0476-116666  
文責 森田三郎

会費 年2000

創刊  
1980.6.3



この草原は、いつまでと...

x x x x x

皆さん、千葉県は今までに、約一萬二千haの海を埋め立て、土地を造りてきたんですよ。

我が千葉県だけで、約一十haとあるんですか。別の所有物としたり、そこで商売するわけでもありません。我々が「自然緑地」として勝ちとったのは、たった3haだけですよ。

市井の一果民のつばやき

## NOGUSO 随感

コンテイション  
クソの色と香  
これいかに

夜にゆえや  
潮の香草むら  
貝と砂  
通じによいや  
おまちでおさま!

「森田さんには、ドラムカンがソッ  
わねッ」。これ、何のことだか分かり  
ますかあ?。着ゴ婦さんの言葉なん  
ですよ。ぼくは、一日、5000〜6000cc以上あ  
ったんですよ。

四年前、生まれ初め病院の白  
シーツの上にわきました。ぼくにフッ  
た家政婦さんが、やはり、こんなこと  
言ったっけ、「森田さん、腸が強いん  
ですよえー」と、身体をマッサージ  
の出したモンで大きくてゆえ、流水  
なりで、フッカえちゃうのよえー  
と。そんだけと、出て離別した  
モンまで、責任と休たいと思ひました。

# あのセイタカシギの巣は今・・・(京葉港)

この池に、セイタカシギが巣をつくり、毎に卵を抱き、そしてヒナを孵えしました。今は物音一つ聞こえません。秋風にヨシ野の穂が波打っています。カモが数匹、水面に波紋を広げています。私は立った。バタバタと飛が立った。波紋。又、静寂。



左の高い草の所に、竹とヨシとガマの見張り小屋があった。柱に使った竹が二本、草の中に立っていた。竹にゆわえたヒモがゆれていた。



今や全くの「ゴミ捨て場」と化してしまった。このゴミの下の、あつき砂の上に舞いおり、体を真直ぐ立て、あの深紅の長い脚で歩きました。



人は、己水の心に、ある可能性、新しい地平線、を指し示し、目覚めさせてくれたものを、決して忘れるものではない。  
それは、永く心の中に残り、やがて、感謝するにいたる。それは、他の何のものにも承認や同意、理解すら求めない。ただ己水のみにて豊かであり、「生くるもの」である。  
たとえひとたびにても、己水が在りしことを識りたれば、ゆずかにて融れたれば、彼はどの「彼」ならず。  
おぼろげながらと彼は観る。現れしものよりと、「現ゆすもの」と。成りたるものよりと、

「成るもの」と。作りたるものよりと、  
「作りしもの」と。生まれしものよりと、  
「産むもの」と。  
未だ見ざるものなれど、己水と知らざる由なれど、渴くが如き心とて、信ぜまほしや、かの泉。つまずき転がらば尋ね行く。

— セイタカシギと私 —



へ今の千葉道路の下、競馬場と谷津遊園の向には、うろは溜めという池がたぐさんあった。V

# ふがんど

オ92号

1981.10.20

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市本北方二丁目二五番八  
電話 0476-1-1666  
文責 森田三郎

会費年2000

創刊  
1980.6.3

## コアジサシ・シロチドリ が 2,900 巣

### 森田三郎君の京葉港・幕張埋立地 繁殖調査について

大浜 清

京葉港埋立地一帯でこの夏繁殖したコアジサシとシロチドリの巣の数は2,900、卵の数5,789におよぶことが、千葉の干潟を守る会会員森田三郎君の献身的な努力によって判明しました。両者の比率はほぼ4.5対5.5ということです。この数は最初予想された数をはるかにこえ、この地域が旅鳥の渡来地、冬鳥の越冬地としてだけでなく繁殖地としても全国第1級の価値をもつものであることを証明しました。上記2種のほかにも、ヒバリセッカ、カルガモ、オオヨシキリなどの相当数の繁殖が認められています。

調査の対象となった区域は正確には京葉港東地区および幕張地区埋立地で、船橋市東端から習志野市、千葉市西部におよぶ、現在約1,200haの埋立地で、例の谷津干潟を含んでいます。(4ページの図参照)

森田君のとった方法はおどろくべきもので、習志野市の総面積の5分の4に匹敵するこの地域を、くまなく短冊状に歩きつくして、巣に番号をつけ、巾2m半の手製の地図に位置と卵数を記入し、これを数十回にわたってくり返したのです。4月から8月にわたる135日間に150回以上の観察を行ったということです。こうして作られた原図をもとに、分布図や環境模式図、グラフなどが作られ、産卵と環境や季節の関係なども大よそ明らかにされました。

彼がどんな苦勞を重ねたかについては11月2日の読売新聞紙上や別項の彼の文を参照して下さい。ここで特に補足しておきたいことは、彼は決して研究のための対象として調査をやったのではないということです。自分

の生まれ育った海辺が滅ぼされようとするとき、やむにやまれぬ心が1975年夏の全記録へとかり立てたのです。しかし調査の間にも破壊は進んでゆきます。卵を採集したり巣を破壊したりする工事関係者を相手にピラまきをした日もありました。営巣に適した貝がらの多い砂地が巣で満員になってしまったり、営巣適地が工事で破壊されてしまうと、道路はたの石炭がらの上でも、工事現場の土くれの間隙でも産卵してしまうのだ、と鳥たちのつたない性を嘆いていました。彼の作った絵地図にはそうした彼の心情と行動の記録が実っています。

この秋も10月に入ると鳥たちの姿が谷津干潟にひとしおにきやかに来てきました。開発側の動きも次第に切迫して来ています。鳥を眺めながら森田君は言いました。「海がかわいそうだよ」彼はときどき名句を吐くのです。

### '75"コアジサシと共に"

森田 三郎(千葉干潟を守る会)

コアジサシはどんな所にも卵を産むのではないだろうか――

京葉港西岸より花見川まで、全期間を通して、3,000もの巣を足で、手で、耳で、鼻で、肌で、文字通り体全部で授けて来た私の実感である。それは、長く遠く激しい精力をとまなり、動物的な肉体行動であった。当初にあって、コアジサシのコの字さえ知らなかった私、"調査"という明確な考えを抱いたのは、まだしばらく後のことである。そしてそれは単なる調査や記録でなく、日記でもある。

これらすべてのものの契機となったのは、野鳥の会会員由井蘭子さんにある。それまで

の私はめくらだったのだ。由井さんは、私がここで生まれ育ったので、知っていると思ったのだらう。その時はただ、「気をつけてみるよ」としか言えなかった。だがその言葉の奥には、多少のはずかしさがあった。彼女のような人が知っているのに、自分は一体何をして来たのかと――。ほの暗き記憶の中を、由井さんの言葉を明りとして、それからまた埋立地にあっては、それらしき2つの記憶と由井さんの言葉という明りて調べねばならなかった。それはまだ4月の中頃。天気の良い日には寒かったが、4つほどさがした。

それを、5月5日の自然観察会を終えてから由井さんと同行し、砂塵逆巻く中を見てまわった。2つはヒバリの巣で他の2つがそうだと教えられた。私は無様な思いをした。それでも私は捜し続けた。ぼつぼつ見つけ次第、忘れなために地図づくりをはじめたのである。幼稚な手探ぐりの、それは心細い、たどたどしいものだった。

ぬかるみや、ドロの中にパイタのタイヤがはまり、持ち上げたり押ししたり数十回。たたくつけるが如き砂あらしに目も見えなくなり、立ちすくんだり。雨につかまりパンツまでぬれ、逃げ込んだサンドパイプの中で身をこごめ、肌寒いみじめな思いをすることも幾度。そんな時、何らなすすべもない私は、雨にかすむ貝殻山とその彼方の草原や水溜まり、群飛ぶカモやシキをただボンと見ていた――。一人ぼっちのそこで、私の胸の中をいろいろな思いが横切る。何でオレはこんな事をしようになったのか。本当に、コロニーがあるのかなあ。鳥と保護運動の石も左もわからないオレがこんなこと、こんなさびしい心持ちになるようなことをしなくとも、他に沢山人がいるじゃないか、と――。

いっそのこと、小綺麗に恰好良くまとめた上げてしまおうか。だが私には何故か出来なかった。それに、うしろめたいある敗北感が心の奥にあった。その心のほの暗き奥より、力

強くうごめきながら、いつも想い起されるものがある。一言の弁解もせず、生きながらにして葬られていった幾億万の"海の仲間達"。今もなお、彼らはこの私の足の下に眠っているのだ。そして見よ、あの谷津干潟を。汚され、破壊されながらも、なお日本有数の鳥の飛来地として、よろめきつつ、うめきつつ、浄化機能のメカニズムという形において、渾身の力をふりしぼり、多くの鳥達をがっしりとその両腕に抱き抱えている姿を。えらいぞ。谷津干潟。干潟の英雄だ。必死になって生きようとしているのだ――。最後の止めを刺される日まで。

それに比べ、今の私はどうだらう。知識が無い。経験がない。暑い。寒い。彼れる。だるい。一人だ。誰も来ない――そんなことで心一杯。この私は一体誰なれば、こんな所でこんな気持ちでいるのか？ そんなことを思っている私は、何だらう――。

そういう自分に、私はいきどおりと悲しさを覚えた。事実そのものよりも、そんなことで暗い、疑惑の心でいる自分が、悔しく、情無かった。悔しさの余り、胸に熱いものがこみ上げずにはいられなかった。そして、そのドロドロした赤黒いものは、私の行手を阻むものをなぎ倒してしまったのである。迷いの雲が晴れたのだ。その時より「コアジサシの繁殖調査」という大道に、思い切り、力強く正面へ足を踏み出して行った。

埋立地はまさに、繁殖の大海原だ！  
いたるところに、彼らは卵を産んでゆく！あるものは、取られ、つぶされて。またあるものは野犬に食われ、ブルドーザーの下に、コータールに覆われてしまった。道端に、草むらに、湿った泥の上に、わだちや人の足跡くも。さらに土手の上やその斜面の小さなへこみ、土くれの上に、石ころ道、ぼんちふっとでもタールのはがれた所や、草と草との間――。何で彼らはこんな所に、こんな

(次頁へ続く)

お振込は千葉銀行012-54253  
谷津干潟愛護研究会

谷津干潟の保存運動に参加して以来、おそろしく初めて書いた原稿だと思ふ。

(前ページより続く)

一つの巣が、一つの巣を示す。

そういう巣を200、300と数えてゆくにつれ、私は彼らに対し、いじらしさと、やりきれない哀れさが込み上げて来た。かわいそうで、悲しい、バカなコアジサシ。無理と知りつつも、私は言いたかった。「頼むから、もうこんな所に卵を産まないでくれ！」と。痛々しい思いで見たくないから。そうだ。彼らは追いつめられているのだ。営巣により好みする余地はないのだ。説とか例外なんかにかまっちゃられないからだ。ここに来る彼らが特別に繁殖能力が旺盛だとは思わない。また特にバカだとも思わない。

私は今でも憶えている。その日は無風の、太陽の照りつく、かげろうのととりわけ立つ日だった。まぶしく光る貝と砂の上をいつものように、体中海の水をたらしながら進んでゆく。そこで私の目に人ったものは卵の塊。つまり、「卵の墓場」である。向うに7つ、こちらに1目。そして山と積まれた、ピラミッドの如き卵を、私は見た。悪臭を放ち、手で触れると、もろく、カサカサと崩れる。暑さも、疲れも、孤独感も、これほどまでに私の気力、活力を挫き、心を暗くするには及ばなかった。私はしばらくそれを見つめるだけで先へ進めないでいた。調査の目的が空しくなり、ただ自分の無力感にいやという程にぶちめされたのだ。

どうか想像して欲しい。その光景と私の気持を。怒りと悲しさの入り混った心で、私はでっとうる砂で埋めてやった。「さようなら」。

それでも私は進んだ。来る日も来る日も。進むことは私の執念となってしまった。心情の世界に根ざし、潜在意識の彼方まで広がるそれは躍動する精力の源でさえある。もはや、コアジサシと私の間には何も無い。野鳥の会も、月曜会も、干潟を守る会も。調査に対する位置づけも、理念も、他人の思惑も、次々と目に触れる破壊も。みな背後に置いてしまった。他の何ものも、調査という車輪を

止めることは出来なかった。ただひたすらゴールへと。最後の一つまで、何が何でも見届けてやろう。調査を遂行させる力となったのは、思うに、追憶による心情の力と、より高い、広大な地平線を見つめての希望、そしていく人かの人達から与えられた、励ましの言葉であろう。その言葉によって私は、いく度か精神的戦線を立直したのだ。

7月の中旬に峠を越えた調査は、それから担々としたものだった。最後の一つが確認されたのが8月16日。

コアジサシの帰った貝殻山は淋しい。

出来るものなら、私も彼らと一緒にオーストラリアへ行きたい。そこで彼らを見たら、どんなにうれしいだろう。

破壊され、つぶされ、取られて、日の目を見ないままに消えた1千巣。今なお足の下に眠る幾億万の海の友達。そのためにも、これから私のやることに、労力と時間を惜しまず注ぎ込もう。それがせめてもの、甲斐になるかも知れない。由井さんが与えてくれたものを、より大きく甦らせることにもなるだろう。

#### ○ シギ・チドリ類の標識調査

浦生を守る会では、昨年と今年の夏に仙台市浦生海岸で捕獲した数百羽のシギ・チドリ類の肩に着色ビニール製のタグをつけて放鳥しました。すでに標識をつけたトウネン1羽が九十九里浜で発見されています(鳥だより参照)。これらの標識鳥をみつけた方は、鳥の種類、着色タグの色、観察の年月日、場所を記して、日本野鳥の会千葉支部事務局まで御連絡くださるようお願いいたします。





# ふかんど

第93号

1981.10.20

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市本北方二ノ三三五ノ六  
電話(0476)1-6666八  
支 責 森 田 三 郎

会費年2000

創刊  
1980.6.3

△ヨシ野に続く道に小川があらう、丸太一本の橋だった。よこの田に橋が干さ水ごと、イナゴと赤トンボが  
かっばいしまつりつのでした。✓

## 地曳き網

皆さんで明るくにぎやかに、  
楽しく網を曳いたこと

× × × × × × × × × × × ×

現在の、ドラゴールと、湾岸道路、マン  
モスプールの所がそうでした。

どう、30年近くも前のことです。谷津

干潟がまだ、「ふかんど」と呼ばれてい  
た頃、トビウオがとんでいた青

みどりの海でぼく達は、皆さん

で地曳き網を曳きました。

母や近所のおばさん達は  
海にアサリをとりに行く

時、ぼくたち子供も連れて

いってくれました。自分の

子供だけでなく、よその家の子

供でも、声をかけたり頼まれた

りしなから、行きたり子供がい

たら皆んな連れて行ったのです

。「森田さあーん、海に行くのあつ、

よおいやすみませんけども、うちの子

ども連れて行ってやってよあー」というよ

うに。反対に、ぼくの母も、アサリ取り

に行く、近所のおいさん、おばさん、あ

るいはカキ大将に声をかけて頼んだ。よ

おはその頃、ふつうのことでした。

ついついさっきまでケレカレしていた子供た

ちと、近所の大人が連れて行ってく

時は、みんな仲良しになっ、つきました。時には、

大人と子供のちよっとした集団にもなっ、か

ヤガワイくはしやぎながら、話しながら、

ゾロゾロ行くのでした。そういうのをみんな、

「一個連隊」と言っていました。

田んぼの中を通り、小川の丸木橋を渡り、ヨ

シ野の向を、子供たちはあちこちで遊ぶが

海へ、ヨーヨーの沖へと行くのでした。子供

たちはまじで、小犬の群のようだった。ー、

どっちから来たのか、まるでわから

なかった、まじで干潟のまん中。大人は

せっせとアサリをとるが、子供達は、

干潟で出来る、おりとあらゆる遊びを

して、アサリなどよちのけでどびま

わっていました。

そんな所で、地曳き網をやっていた。

「オオオーイ、誰かあー、引っぱ

よあー、と、どっかい声で叫ん

でいるのが、潮風につつまえつくと

と、その声にはる人は誰でも、大人と

小人と、見知らずの人でも、「よあー、

えー、と、やっぱえやあえー」とか、「み

んなあー、地曳き網だあ、行くべえやあ、引

張ってやんべえー」と、細の所へ、アリのよ

うに、みんな走ったかっ、つゆく。「オオー

ッ、あっちに負けるなよあー」と、笑い、

はしやぎ、声をかけ合い、「ヨオーイ、ヨ

オーイ、と競争で、子供はそのまま走り、

よるこんで走りまわり、気遣いみたりだった。



54年当時、企業庁は言った、「堤防(ベンチの所)から、巾5mの所は、皆さんも立ち入りできなくなります。工事中は立ち入り禁止です」と。

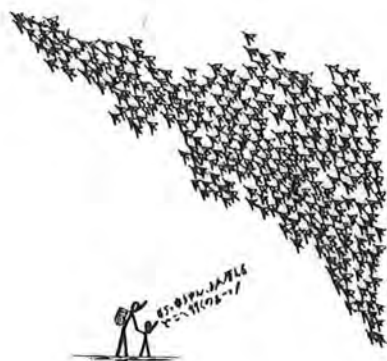
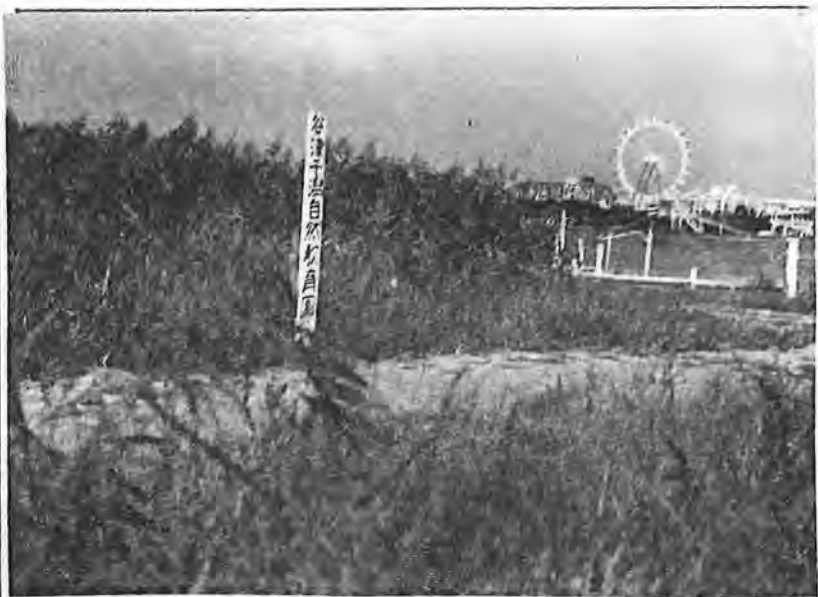
# 自然緑地の境界り線に

写真のような、看板とクイッと判じ難いようなものから、本立っています。住宅造灰地と、例の3.1haの草地の由です。この由、あんまり草がのびてしまい、字が見にくくなった為、カマで草を刈ってききました。勿論、こちらも皆、流木を利用して作ったものである。

人に知ってどうう為であり、標識であり、「意志表示」でもある。この類のものは、こゝからとシヤン／＼作って、いたる所に立てていく。

としかしたら、この件で、企業庁とぶつかるかど知れり。それと十二分にわきまをえつつ、そういう時の覚悟はしていい

ところで、自然緑地を守るために、自然係工団体の会員の皆さん、皆さんには何をしておられませんか？。セイタカシヤヤコアシサシを見張っていた時、あなたたちは観察に来た言いました、役に立ちました。では、それをどう役立てていきますか？。



ちよつと関心があつたところで、私はただ、左の記事に興味があるんですよ。その時々、オリに融れた時に、少し考へたことになっていきます。今は役に立たなくとも。

## 子供の世界が消えつつある

教員 竹本 光伸 30

今、小学校で問題になっているのは、子供の遊びである。遊びは小学生にとって、極めて重要な学習であり、この過程を通り過ぎて、豊かな人間成長はあり得ない。ところが、子供たちが遊ばなくなった。遊ばないのならまたよい、何をすればよいかわからないと言った方が適当かもしれない。

原因はいろいろ考えられるが、今の子供たちが自由が奪われてからもう久しい。自由のない世界、それは子供だけの世界が消えつつあるといえる。今の子供たちは、自由の中に暮らしている。

ことを知らない。子供には、口では言えないストレスが蓄積されている。

私は厚休みの四十分という長い間に、目的もなくぶらぶらしている子供たちを見ながら、今の教育の根本的な姿に疑問を持たざるを得ない。子供をこまごまと追いつけ、言ったのは、今の教育であると言っても言いすぎではない。今の教育の中に子供の心の成長に役立つものがあるだろうか。受験体制中心の学校教育の欠点が、今子供の遊びの中に現れようとしている。子供の心は決して輝いていない。子供の心から何が消えようとしている。私はその光を決して消してはいけないと思ひながら、子供たちを見つめている。

(宮崎県小林市)



へ今は「ファミリーマンション」の横に、昔、船がよぐ捨てらる水で、水の中の船の下に、渡りが二か

# ふかんど

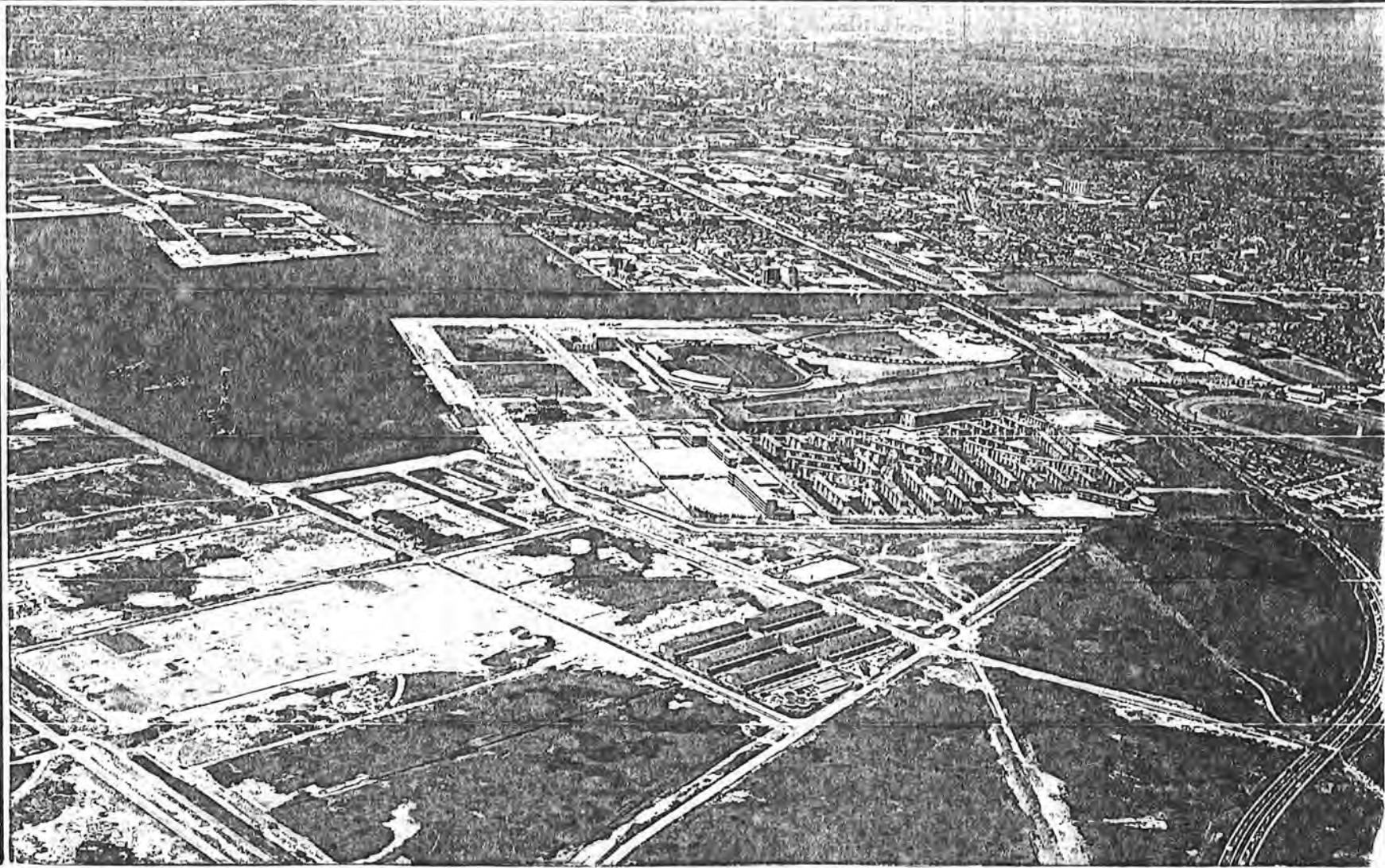
第94号

1981.10.21

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市本北方二丁目三五〇六  
 電話 〇三三-一六一六六六八  
 支責 森田三郎

会費 年2000

創刊  
1980.6.3



## 変貌する

## 京葉港埋め立て地

谷津干潟周辺の埋め立て地では、いたる所で工事が行なわれております。

今は工事関係者や重き類、ドロだらけのダンプ作業ぐフ、ヘルメットが圧倒的優勢を示しています。しかしそれと、これから数年後、年を経るにつれて、昔の姿や皮ぐフ、ネクタイ、カバン、ヨーテ商用車が、目に入るとな姿に変わってゆくでしょう。

かつて、荒涼たる光景の埋め立て地を、コジキカベトコンのように、我がどの顔にあらゆる所を歩きまわって来た私と、その活動範囲がすっかりせばめられ、「楽にさわってまいりました」。

谷津干潟にも、近代化の波が、ヒシ／＼と押し寄せております。そこで森田は、その波に乗すべく、ちつとずつ努力をしております。まずは、鏡を見ることから――。

「谷津干潟展」 10月25日～11月3日

習志野市文化祭・袖ヶ浦公民館

内容  
 谷津干潟と埋め立て地の渡り鳥のパネル  
 「ありし日の谷津干潟周辺と赤銅色の子供達」

◎春夏秋冬オートバイで来る、氏の交通安全を、私達は心よ祈ります。

石川勉さんのつしと

初めて会ったのは、6年前の、50年の夏だった。場所は、京葉港の埋め立て地で、巨大なコロニーのどまん中。そこは今、富士重工エースバルの積み出し港になっている。

50年といえば、京葉港において、コアジサシ・シロチドリ・コチドリが、全国で最大規模のコロニーを形成した頃である。その中でも、一番大きな集団で営巣していた所で、石川さんと顔を合わせたのであった。

私に、コロニーを見たのから運木についてくると頼まれた人が紹介した。ほぼ、アレが石川さんよ、と指差すので、そのオを見た。暑くてまぶしい貝がらと砂の広がる所に、ボジンとテントがあった。中からはだーで裸の、色の黒い、

ゴッつい男が、「いよあーっ、オレはよあ、卵とる野郎がいるからあ、こん中で見張ってたんだよあーっ」と、足を痛そうにうたがって来た。

石川さんは、東京の汝町で、自ら中華料理店を営業し、全部自分ですこ人だ。44年当時より、谷津干潟と埋め立て地の鳥の調査に、毎月旺日来っている。全て自費で自主的。この頃、広い埋め立て地で私がおうのは、石川さんのみだった。

なぜか、こののどに関心がありまして。

からだの反乱

竹内 敏晴

全国の中学校で、からだの反乱を起している。去年から今年にかけて受験高生の両親殺しや、逆手に負えなくなった父親が子を断つて殺したなどの報道が相ついでいたが、夏にかけては、中学生たちが集団で教師を殴った事件が全国いたるところで噴き出してきている。高校生の

からだはもはや学校から撤退して家庭内閉じこもり、そこを崩壊させる方向を取り始めた時、中学生のエネルギーが噴火し始めたのだ。

十年前には、全国の大学において学生たちのからだの反乱した。直接にはかれらは高度成長社会の管理強化に、さらに根元的には近代合理主義思考に異議を申し立てた。かれらは全人格を統合しうる学問を要請し、さらに近代科学の根底たる心身二元論の非人間性に対して肉体の復権を

も主張した。この闘争を、ある哲学者はマルクスにならって「人間の自然」の反乱と呼んだ。

大学における「からだの反乱」は鎮圧された。「やさしさ」と自覚性だけがキャンパスに氾濫（はんらん）する。「からだ」はもっとフリミティブな、概念やスローガンで装われた元で火を噴いた。やがてこれを鎮圧される日が来たならば、からだはより原始的な次元でまた反乱するであろう。からだは管理し切られることはないからである。もし、小学校幼稚園の子どものからだの反乱が始めたら……、すでにその兆しは始まっているが、「暴力」に表現を見出すにはあまりに力強いからだは、自閉、自傷、そして自殺に道を見出すであらうことを私は怖れる。

新からだ読本

（宮城教育大教授・言語指導）

チドリ科	ガンカモ科	サギ科	
ハジロコチドリ	コバクチョウ	コイサギ	
コチドリ	オハクチョウ	ハジロゴイ	
イカルチドリ	コハクチョウ	ササゴイ	
シロチドリ	リュウキュウガモ	アカシラサギ	32
メダイチドリ	アカツクシガモ	アマサギ	
オオメダイチドリ	ツクシガモ	ダイサギ	
オオチドリ	カンムリツクシガモ	チュウサギ	
コバシチドリ	オシドリ	コサギ	3
ムナグロ	マガモ	カラシラサギ	
ダイゼン	カルガモ	クロサギ	18
ゲリ	コガモ	アオサギ	
タゲリ	トモエガモ	ワシタカ科	
シギ科	ヨシガモ	ミサゴ	
キョウジョシギ	オカヨシガモ	トビ	
トウネン	ヒドリガモ	ハイネロチュウヒ	
ヒバリシギ	アメリカヒドリ	マダラチュウヒ	
オジロトウネン	オナガガモ	チュウヒ	
ヒメウズラシギ	シマアジ	ハヤブサ科	
アメリカウズラシギ	ハシビロガモ	シロハヤブサ	
ウズラシギ	アカハシハジロ	ハヤブサ	
ハマシギ	ホシハジロ	チゴハヤブサ	
サルハマシギ	オオホシハジロ	コチヨウゲンボウ	
コオハマシギ	メジロガモ	チヨウゲンボウ	
オオハマシギ	アカハジロ	フクロウ科	
ミユビシギ	キンクロハジロ	トラフズク	
ヘラシギ	スズガモ	コムミズク	
エリマキシギ	コケワタガモ	ヒバリ科	
コモンシギ	ケワタガモ	ヒバリ	
キリアイ	クマガモ	ハマヒバリ	
オオハシシギ	ピロードキンクロ	ツバメ科	
シベリアオオハシシギ	アラナミキンクロ	シヨウトウツバメ	
ツルシギ	シノリガモ	ツバメ	
アカアシシギ	コオシガモ	アトリ科	
コアアシシギ	ホオジロガモ	アトリ	
アオアシシギ	ヒメハジロ	カワラヒワ	
オオキアシシギ	ミコアイサ	マヒワ	
カラフトアオアシシギ	ウミアイサ	ヒヨドリ科	
クサシギ	カワアイサ	シロガシラ	
タカブシギ	カモメ科	ヒヨドリ	
メリケンキアシシギ	ユリカモメ	モズ科	
キアシシギ	セグロカモメ	チゴモズ	
イソシギ	オオセグロカモメ	モズ	
ソリハシシギ	ウシカモメ	セキレイ科	
オグロシギ	シロカモメ	キセキレイ	
オオソリハシシギ	カモメ	ハクセキレイ	
ダイシャクシギ	ウミネコ	セグロセキレイ	
ホウロクシギ	ズグロカモメ	マミジロタヒバリ	
シロハラチュウシャクシギ	クビワカモメ	コマミジロタヒバリ	
チュウシャクシギ	ソツビカモメ	ヨーロップビンズイ	
ハリモモチュウシャク	ソウゲカモメ	ビンズイ	
コシャクシギ	ハジロクロハラアジサシ	セジロタヒバリ	
ヤマシギ	クロハラアジサシ	ムネアカタヒバリ	
アマミヤマシギ	ハシロクロハラアジサシ	タヒバリ	
タシギ	オニアジサシ	ホオジロ科	
ハリオシギ	オオアジサシ	シベリアジュリン	
チュウジシギ	ハシフトアジサシ	オオジュリン	
オオジシギ	アジサシ	ホオジロ	
アオシギ	ベニアジサシ	コジュリン	
コシギ	エリクロアジサシ	ヒタキ科	
セイタカシギ科	コシジロアジサシ	ツグミ亜科	
セイタカシギ	ナンヨウマミジロアジサシ	ジョウビタキ	
ソリハシセイタカシギ	マミジロアジサシ	ノビタキ	
ヒレアシシギ科	セグロアジサシ	ウグイス	
ハイロヒレアシシギ	コアジサシ	コヨシキリ	
アカエリヒレアシシギ	ハイロアジサシ	オオヨシキリ	
ツバメチドリ科	クロアジサシ	ツグミ	
ツバメチドリ	ヒメクロアジサシ	セッカ	
タマシギ科	シロアジサシ	ムクドリ科	
クマシギ	クイナ科	ムクドリ	
ミヤコドリ科	クイナ	カラス科	
ミヤコドリ	オオクイナ	ハシホソガラス	
カイツブリ科	ヒメクイナ	ハシフトガラス	
カイツブリ	ヒクイナ		
ハジロカイツブリ	シマクイナ		
ミミカイツブリ	マミジロクイナ		
アカエリカイツブリ	シロハラクイナ		
カンムリカイツブリ	バン		
ハタオリドリ科	ツルクイナ		
ニューナイスズメ	オオバン		
スズメ			

調査 石川勉氏



人墓石に小便すこと、オチンチンが曲り込んだ。でもオレは、墓を「遊ば場」にして、坊主がよく押し込んで来たけど、「曲ってなりのやあーっ」。✓

# ふかんど

第95号

1981.10.22

谷津干潟愛護研究会  
 市川市本北方二丁目三五〇六  
 〒272 電話 〇四三二一六六六六八  
 文責 木村田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3

谷津干潟クリーン作戦で  
 『一番困っていたこと』

ゴミだ。拾ったり、集めたゴミをどう  
 しようか。どこへ持って行くか、どう処  
 理するか、どのように運ぶかという、そ  
 れが最大の問題だった。

前田建設と竹中土木の協力か、それを  
 解決した。イート、行政への突破口を開  
 いた。「企業に協力してどうなるんて、  
 ー、という批判が自然保護団体の  
 中にある。しかし、今まで、その人産は  
 何をやって来たのか?。ムネすコンクリ  
 ートや鉄骨、生活用品のすべて、産業廃  
 ザ物のぼう大な量を、どうやって解決し  
 ようというのか。今まで、何千回もゴミ  
 の意見は聞かされた。オ、意見だ。イム  
 では、どうしようもないのである。



③ 私たちは、「ボランティア活動」をすべての基  
 盤柱としていた。常日頃より、断えずことな  
 く、やむことなく、クリーン作戦は行なう。

①は、近所の主婦と、ドイツ人のオを協力して  
 くれた。この頃、我々だけだった。

②、こうして、みんなのでも引き上げる。  
 ③、前田建設と竹中土木のオ々か、ムネから干  
 潟の中に入ろうとしている。



## 谷津干潟、三 者できれいに

「東京湾奥部に残る唯一の自然  
 干潟をみんなできれいにしよう」  
 と十九日、谷津干潟愛護研究会  
 (代表、森田三郎さん)と天蔵舎  
 関東財務局、大手土木業者が一体  
 となった大がかりな清掃作業  
 が、習志野市谷津三目的谷津干  
 潟で行われた。官、民、企業協  
 力の清掃はこれで十回目、同  
 干潟は見違えるようにきれいにな  
 ってきている。

この清掃作業が始まったのは一  
 昨春秋。同干潟の保存運動を続け  
 てきた森田さんと近所の主婦数人  
 とのささやかな手作業で始めた。  
 これを見かねて、周囲の土地管  
 理者の県企業庁が、昨年六月ごろ  
 から、さら上げたゴミの運搬を  
 手伝うようになり、今年五月にな  
 って、干潟の管理者の大蔵省関東  
 財務局もクレーン車を出動して、  
 森田さんらの清掃作業に力を貸す  
 ことになった。  
 これに「搬運」を買って出たの  
 は、近々で東関東自動車道の建設  
 工事を行っている前田建設(前田又  
 兵衛社長)と竹中土木(竹中統一  
 社長)。今年六月から、毎月第三  
 火曜日の午前中、一時間半ずつ、  
 両社から従業員十数人、ユニック  
 車、ダンプカーを動員して手伝い  
 始めた。

この日も、両社から十三人が出  
 て、同干潟の北西側一帯を清掃、  
 心ない人たちが捨てた自転車、パ  
 イク、コンクリート片、家具など  
 を次々にきれい上げた。

55・8・20  
 (読売新聞)

開 催 日 程

期 日	時 間	会 場	テ ー マ	講 師	定 員
A 10月30日 (金)	1:30~3:30	袖ヶ浦公民館 集會室	生活と公営	環境庁自然保護専門官 江 原 秀 典	100
B 10月31日 (土)	1:30~3:30	"	誰でも老いがやっ てくる	高齢者問題研究家(東京 都中野区保健広域部) 大工原 秀 子	100
C 10月31日 (土)	1:30~3:30	実花公民館 集會室	話し上手と聞き上手	話し方教育センター所長 千 名 裕	130
D 11月12日 (木)	1:30~3:30	聖教公民館 和室	新聞の利用	読売新聞社宣伝部次長 森 川 哲 明	60
E 11月13日 (金)	1:30~4:00	菊田公民館 講堂	非行の子を作らない ために	教育評論家 阿 部 三 郎	180
F 11月18日 (水)	1:30~3:30	大久保公民館 集會室	知ってかきたい法律 の話	弁護士 渡 辺 隆	80

主 催 習志野市選挙管理委員会・習志野市明るい選挙推進協議会  
後 援 習志野市教育委員会

習志野市文化祭

袖ヶ浦公民館

とくに今回は、環境庁より、江原秀典氏  
が講師として来ます。

谷津干潟園係にも話しがあります。一人  
でも多くの人が参加されたのを希望します  
。私か聞かされたところでは、干潟に隣接  
している、袖ヶ浦・秋津・香澄に住んでい  
る市民は、谷津干潟の保存を望む声が、左  
例的に多いとのことだす。

又、谷津遊園の跡地にフットボール「自然  
公園」としての要望が、附近住民から県の  
方に出しており、市も同じ意向です。

たくましい子に育てるために

東京・府中市で、小学四年生の少女が  
教室で自殺した。つい数日前には、福島  
県内で小学六年生が同じ学校の一年生を  
死なせるという事件があったばかりだ。  
小学生という、まだまだ幼い子供たちの  
世界に起こったこのような異常事は、一  
体、何を意味するのだろうか。大人とし  
て、また社会として、真剣に考えてみ  
なければならぬものが、数多くあるよう  
に思われる。

ただ関心があったとんで  
まあ、ちょっと目を離してあつて下さ  
いよ。こども、社会の、一つの断面なの  
でしよう。こころい言葉は、自然保護関  
係者からとくに多く出ています。でも、  
迷っていたのは、大人ではなりましたか。

た、という。恐らくこの少女にとって、  
先生はまるで肉親のように甘えかかるこ  
とのできる存在だったのではなからう  
か。その先生にしかられた。先生は自分  
を悪い子だと思ってしまったのではない  
か——小さい胸にそんな思いがわき上  
ったのではないだろうか。

たった一人教室に残って、死を考  
える。ひとりぼっち。孤独。それがまだ十  
歳にもならぬ少女の姿だけではない。ま  
じ。

しかし、いま、この少女に限らず、多  
くの子供たちが自分ひとりぼっちだ  
と思込んでいるのではないだろうか。子  
供たちの社会もいまや競争の世界だ。そ  
して子供と大人の関係にしても、また教  
師と児童、親と子の関係にしても、な  
にかよそよそしい、うまく歯車のかみ合  
ぬものが生まれている。それが、子供の  
自殺がふえ、しかも年々低年齢化してい  
るということの意味ではなからうか。

今度の自殺事件で、最も心配されるの  
は、大人が子供をしかるということにつ  
いてますます臆病になるのではないか、  
ということだ。親や教師が、うっかり子  
供をしかって自殺でもされたら、と考  
えるようになっては、事件の教訓は全く生  
かされぬことになってしまう、というべ  
きだろう。むしろ大人がしかること、注  
意することに消極的になってしまったこ  
とが、子供との関係をゆがめている。し

かってさえくれない、ということが、子  
供を無限の孤独に追い込んでゆく。  
過保護という言葉に表されるような大  
人と子供との関係は、結局は大人の側の  
自信のなさからくるものだろう。それが  
子供をこらえ性のない、そしてさねなき  
っかけで衝動的に行動するいびつな人間  
につくりあげている。

子供たちの世界から自殺といういまわ  
しい事件を根絶するには、一人々々の子  
供をたくましく育てあげること以外には  
ないのではあるまいか。もちろん、親と  
子の対話ということも必要だろう。しか  
しより重要なことは、ほめるべき時はほ  
め、しかるべき時はしかる大人としての  
きびしい姿勢だろう。そのような関係の  
中では、子供が自分ひとりぼっちだ、  
などと感ずることもあるまい。

このことは、学校の中での教師と生徒  
の関係についても同様だ。また、たとえ  
見ず知らずの大人と子供とであっても、  
社会生活の中で常に心掛けるべきこと  
である。

子供たちにもつわる事件は、すべてが  
社会そのものの病理の現れである。その  
責任をとらねばならないのは、常に大人  
の側である。子供を大切にすることはど  
ういうことか、子供をたくましく、すこ  
やかに育てるとはどういうことかを、大人  
のすべてが問い直さなければならぬ時  
にきている。



谷津干潟のすぐ近くの小川や沼には、いろいろな水草やジャングルのようになっていました。✓

# ふかんど

第96号

1981.10.22

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市本北方二丁目三五〇六  
 電話 0476-1-6666  
 文責 木村田三郎

会費 年2000

創刊 1980.6.3

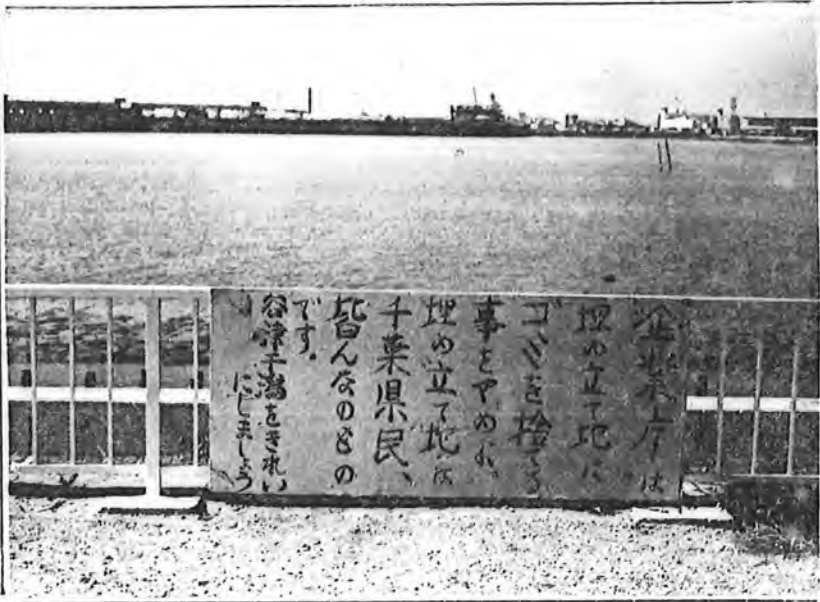
看板一つで、作る人、書く人によって、それぞれの性質が出ますねえ。



## 谷津干潟の看板コンテスト

あなたは、どの看板がいいと思いますか？。「ええ、気に入ったのがない？、それは残念、それではあなた好みのものを作って下さい、さあ、どうぞ！」。本当は、こんな看板なんぞ、なくても

いいような所にしたりのです。でも現実は、行政ではこれと違って、何ともしないのので、現状ではしょうがないんじゃないでしょうか。これからも、看板はどんどん作っていきませう。作って、また作り続けたいと思います。一人でも多くの人が書けて下さい。私達もそこに来ている人をつかまえて、「何か書いてくれ」と、みんなに頼んでいきますのでー。



埋め立て地の園児たち

埋め立て地か、自然教室でした。

そこには、いろんな貝がキラキラあって、観察や採集ができました。その日の日は、かつて、埋め立てられず前、この辺の海にすんでいた見たちなのです。雨の為に地面が谷

のように大ざらめ、たくさん白い貝がキラキラして所に来ると、子供たちは声を上げて見ひらいていました。貝についで砂を服でふき、きんぎょにする、大事なように、水溜まりの所や、湿った所には、鳥の足アトがいっぱい残っていました。カモ・シギ・千ドリなどの足アトでした。



1975年頃の自然観察会

当時はまだ、若松田地や袖ヶ浦田地のすぐ近くで、コアジサシ・シロチドリ・コウ

ドリがたくさん巣をつくっていました。そして、干潟へ行く途中には、アミ原や池がそこいらじゅうにありました。バン・クイナ、ヨシモリ・カイツブリも見られました。

谷津干潟採鳥会

野村 悦子

ねむい目をこすりながら見上げた空は低く雲がたれこめていた。寒い。9時20分頃京成線センター競馬場に着く。すでにプロミナーを抱えた人達が10人くらい集まっていた。団地行きのバスに乗り、いざ出発。「オーイ」とドタバタ2人の男女がバスに追いつく。しかし冷たくもバスの運ちゃんに無視されてしまった。この2人を終点で待ち、そろそろと歩き出す。まず、港でウミネコ、ホウロクシギを見る。埋立て地の泥の中を歩いてゆくと、ヒバリが驚いたように飛び出す。舞い上がってうたっているヒバリもある。水辺にアオアシナギが数羽。遠くの池にはオナガガモが群れている。荒涼としたアシ原をつきる道を約30分くらい歩いて、やっと谷津に到着。遠くの方に鴨。近くの干潟にシギ・チドリが認められた。ツバメチドリは、アツというまに消えてしまった。解散前に団地で、シロチドリの巣を調査した地図を見せてもらった。ただ感心するだけである。なにかをするということは、こういうことかと思った。

- <認めた鳥> ダイサギ(1)、コサギ(56)、カルガモ、コガモ(2+)、ヒドリガモ(1+)、オナガガモ、ハシビロガモ、スズガモ(4)、シロチドリ(1000+)、メダイチドリ(1+)、ムナグロ(2+)、ダイゼン(59+)、トウネン(6)、ハマシギ(10+)、ツルシギ(1)、アオアシナギ(11+)、タカブシギ(1)、キアシナギ(2)、オオソリハシナギ(6)、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ(2)、ツバメチドリ(1)、ユリカモメ(3)、ウミネコ(82)、キジバト(1)、ヒバリ(20+)、モズ(1)、セッカ(1+)、スズメ(200+)、ムクドリ(1)、ハシブトガラス(2)(以上32種)およびセキセイインコ(1)。



へつるべ井戸の流しの水たまりには、チョウヤハチ、トシボがたくさん水をのみに来ました。

# ふかんど

第97号

1981.10.23

谷津干潟愛護研究会  
〒272 市川市北方三丁目三番六  
電話 0476-81-6666  
文責 森田三郎

会費年2000

創刊  
1980.6.3

谷津干潟に来ると、皆さん鳥ばかり見て  
いるようです。でも、時には、人の知らな  
い、目につかない所をよく見て下さい。  
自然緑地の所が危殆に陥り、もう8  
し9年たちました。年を追って、土地も、  
だいが塩気がうすくなってきたようです。  
草も、塩気に強かったものも、殆んどその

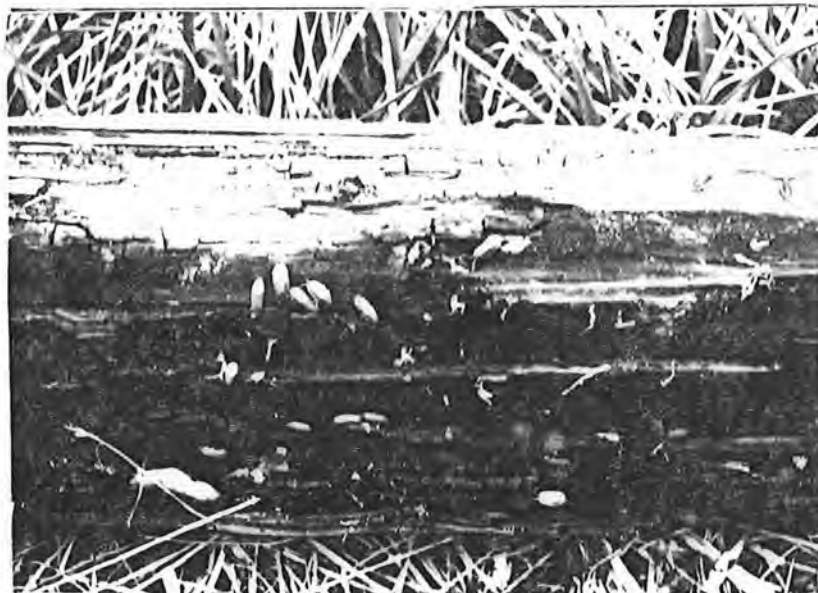
すがたを消してしまいました。草どうしでも、  
適者生存の原理がはたらいてるので、  
かってこの辺は、ガマや水辺の草が大部分  
でした。しかし、ガマは今は、一本も見かけ  
なくなりました。年を追って、内陸性の草や  
生きものが増えてきました。ナメクジやアリ  
は、最初、どうやって来たのだろうか？



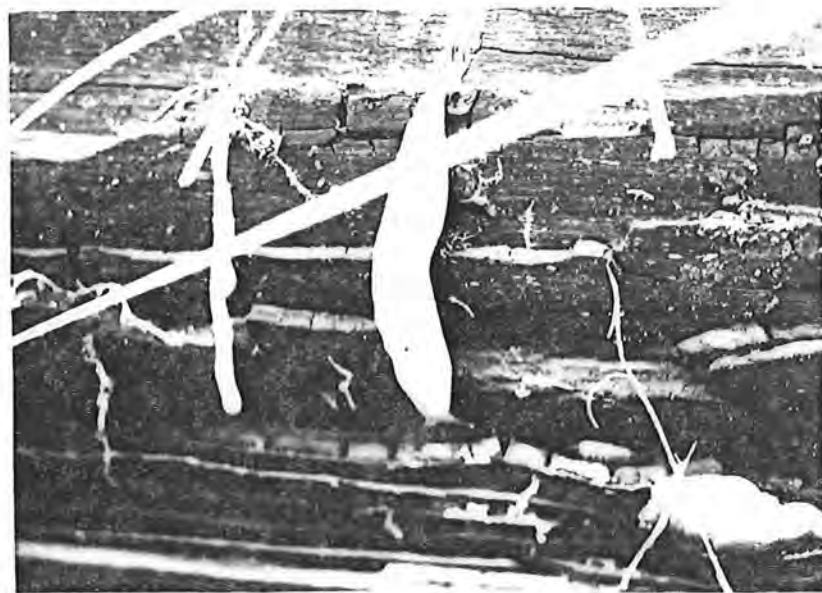
まわりがボロボロの、くさった板をう  
ら返してみました。そこは、アリの巣  
でした。白いのは、アリの卵です。



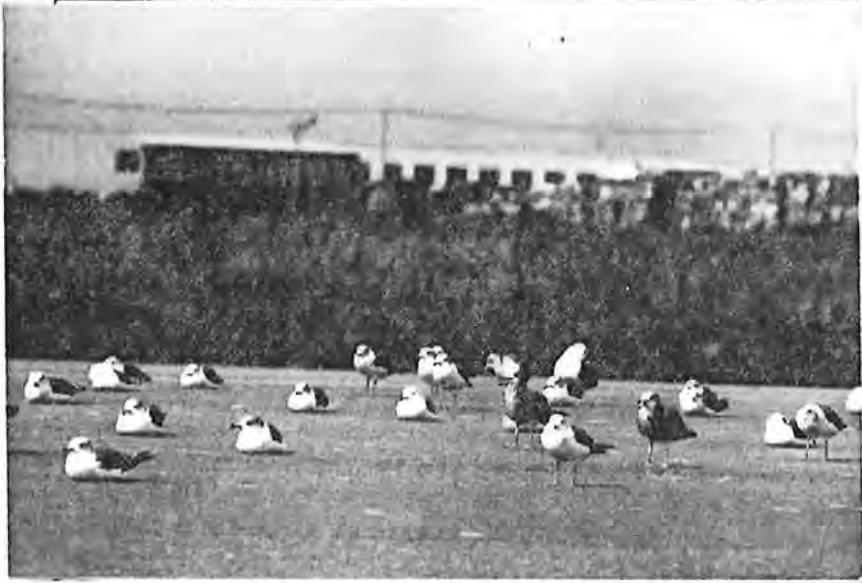
日のあまり当たらない、水気のある地面に、  
ほらっ、コケがはえています。まわりの白い  
のは見がらです。コケの色はみどり色です。



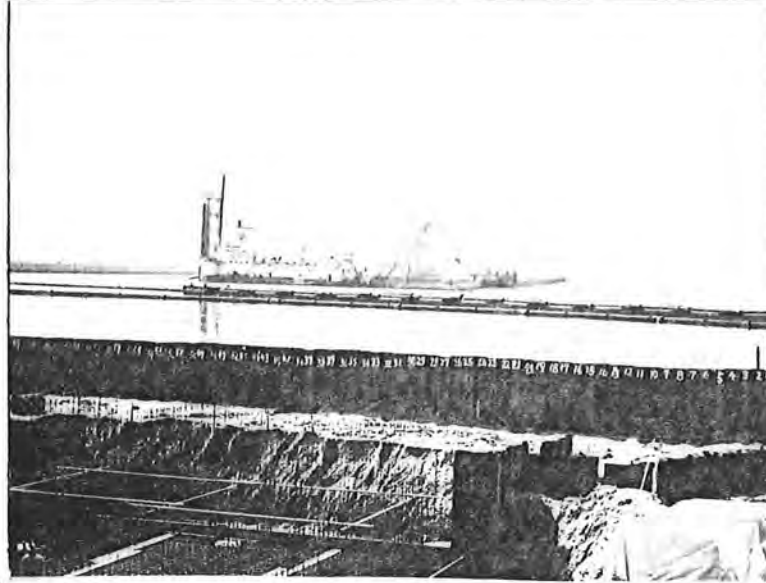
草むらの中に、埋もれるようにして、古い、半分くさった丸太がありました。その丸太を  
ころがしてみました。すると、ナメクジとダンゴムシがいっぱい。



埋め立て地では、こんなことが・・・



ここは、広いコンクリートの船つき場です。ウミネコの大群が、このようにして、長い列をつくって休んでいるのでした。

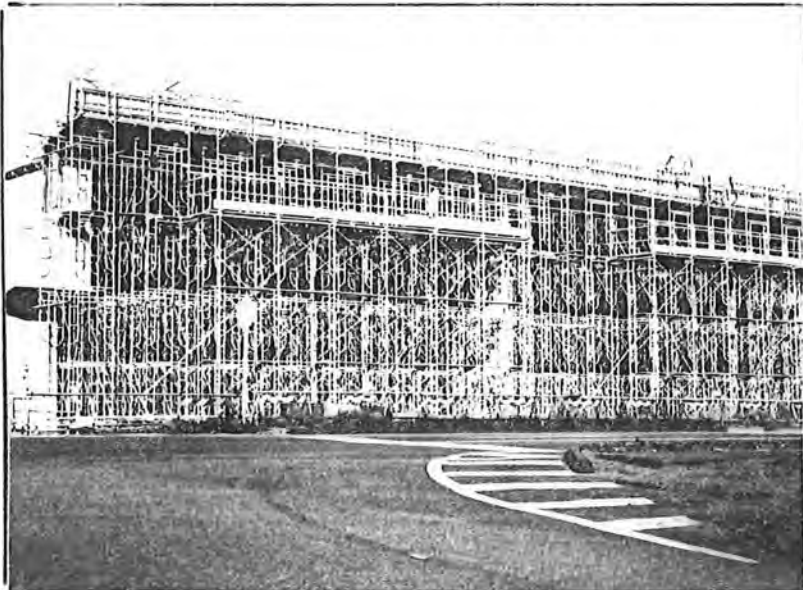


いかつり、大きなしゃんせつ船がとまっています。京葉港には、こういう船が10せき近くもあります。

埋め立て地のようすと、カメラでとらえてみました。埋め立て地であったこと、今行なわれていたことなど、いさくなく、たくさんのことと、ここからもお知らせしていきたいと思つます。

埋め立て地では、いたる所で、いさくなく出来事が起つています。 Year、一日ずつ、一ヶ月ずつ、一年ずつと納り変つていきのです。人目につかないことなども、やはりカメラでとらえ、記録に残していきます。

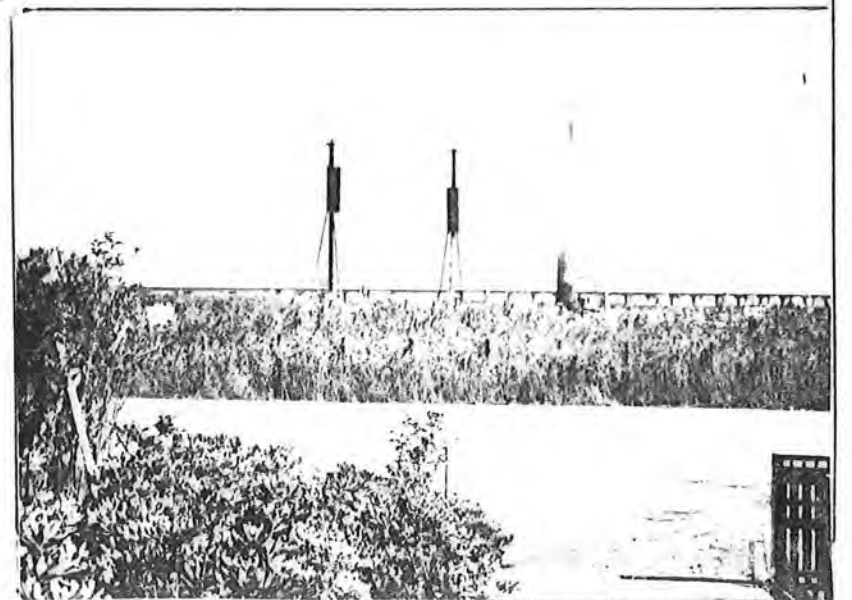
谷津干潟のすぐ近くの所です。東関東自動車道路の工事です。それにしても、そのちごり設備を使うんですわ。



鉄砲のタマを数発打ち込まれています。カモです。道路の近くに、大きな水たまりがあって、カモがたくさんくつたのです。

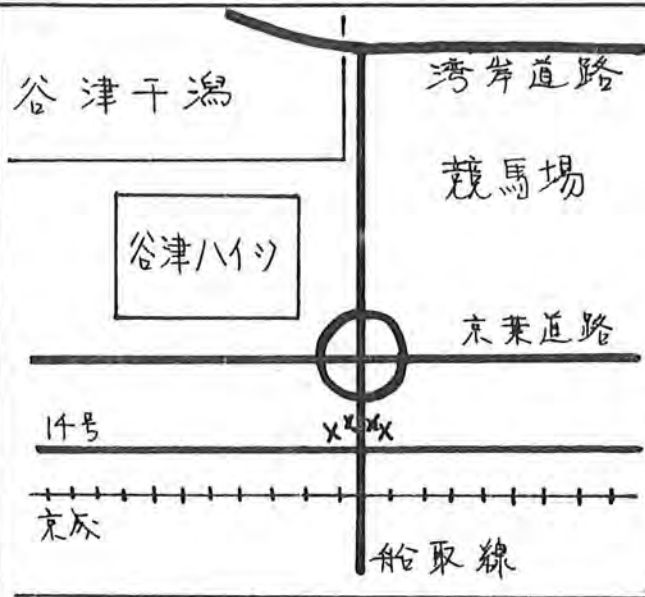


埋め立て地に高く大きくひびきわたる、スティームハンマーの音。秋のためか、その音はいついそ大きく聞こえます。





（略図）



# ふかんど

第98号

1981.10.23

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市本北方二ノ三五〇六  
 電話 0476-31-1666  
 文責 森田三郎

会費 年2000

創刊  
 1980.6.3

八厘河の石柱の上に登ると、まわりが野原と田んぼ、そして風車の沼があり、ヨシ野があり、その先に、えび干潟が見わたせた。✓

四本ある石柱の、まん中に立っている。14号線と船取線が交錯する、ガードの下にある。津田沼町とある。

習志野が見た石柱。私が小さいころ、ここにごじきお住みついていた。軒先をくっつけて民家が建ち並ぶ。

船橋がわから見たところ。まわりには、セイタカアワダチ草と、ススキ、そして雑草がまみれられている。上の道路は、船取線である。

## 運河の名残り

14号線の、船橋市と習志野市の境にある。上を通る、船橋ー取手線を中央にして、船橋がわに二本、習志野がわに二本ある。黒ずんだ、灰色のコンクリートの石柱である。その由縁を知った人は、今となっては殆んどいない。

土地の古者は言った、「あゝは確かあ戦前の、昭和17年頃に作り始め、すんでえ、19年頃に完成したなあ、ー。あゝあゝ、あの上にも、あゝを柱としてゆゑ、京成の線路とか千葉街道を通すつもりだったんだよ。内務省がやったなあ、ー。あゝはゆゑ、東京湾の谷津とあゝ、利根川にかけてゆゑ運河を作った、汽船を走らして、んでえ、軍港を作ろうってわけだったのさあ。あの石柱の下には、松の杭が何千本とあって、あゝを土台に使ってあゝんだよなあ、ー。と。



私の田舎(福島県原町市)の海...太平洋が広がっています。リアス式海岸ゆえに立派な岬もありません。松林、防波堤、砂浜。そして青緑の海。そこには白い波が忘れることなく折り返して来れば、引退していきます。カキやカニなど季節の鳥たちが飛べない。砂浜には、ホウソウ時には、ワカメもうちあげられています。そして、こち良い海風が利に模様を描いていきます。夏は金釣りや海水浴の人たちで賑わいがあふれます。冬は、水もいなくて、時。釣りが訪ねるくらいです。でも、新しい工場が立ち、海も汚れてきました。遊泳禁止区域も出はじめてきてゴミも4ラホウ...でも、まだ海の息が、自然の生命は健在です。それは田舎の海...今でも帰ると心が暖かくなります。 K.Y.



脚立の風景

### 読者からの投稿

この人は、昼は会社に勤務して、夜は市川のパーラーでアルバイトをしていますが、ふかんどしの読者です。美人です。ふかんどしを読むと、小さなその、福島の海を思い出すと書いていました。思い出させるのが、谷津干潟なのかなと考えたが、光栄はすかしさがいつぱいです。又書いてくわいとのことです。ご来稿、お待ち申し上げております。

### ここに仲間がいた

簡素な生活をせざるを得ない、この私にとって、左の記事は誠に心強い限りというところ。ありがとうございます。

います。おかげさまで、どつやら希望を持たせていただくことが出来ました。

このように、一流の人が、あたかそ私を代弁してくわすかの如き言明は、私の心をほのぼのとさせるのであります。常日頃、人にとや言えず、自分自身にさえ正視させるのを拒むことが多いためです。ヤホと、「知的住居学」と銘打って、まあ、あるいは、「簡素な生活で喜びを」なんてやら



「知的住居学」の 清家 清氏

### 簡素な生活で喜びを

「日本には、人間が向うい... あんまり満足し... 生活の質を高める... 住まいの... 具体的... 方法... 見聞...」

を多目的につか... 住まいの知... 先祖... 受け継い... 狭い... 簡素な... 喜びを... 感じる... 方法... 日本には...



「古人の言いが、すたれ... 海が豊かになりますから、海で...



へごはんの時、自分で作ったハシヤ、ハマグリなどの貝がラで食べると、ふしぎとおもしろかった。

# ふかんど

第99号

1981.10.24

谷津干潟愛護研究会  
〒212 市川市本北方二丁目三五番六  
電話 0426-31-6668  
支責 森田三郎

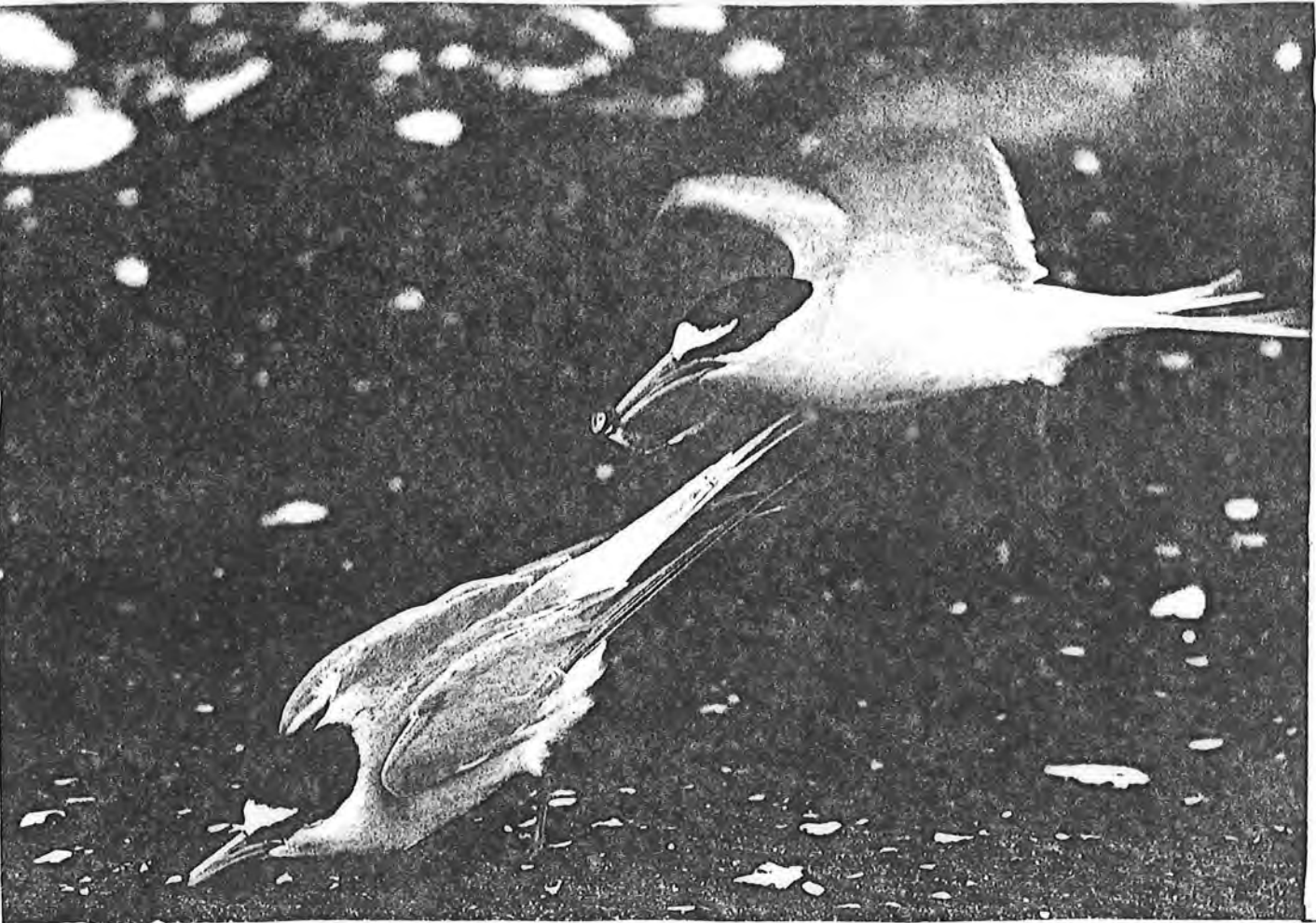
会費年2000

創刊  
1980.6.3



埋め立て地の砂丘の表面に出来た、風紋です。そして、砂が、丘が風で移動するのです。

オスガメスに、「求愛」をしています。オスの小魚をメスが食べれば、いふで結婚は成立。



失るわれゆく

光景

x x x x x

清純の恋すら抱く、なだらかな大小の砂丘が連なる所。そして、「埋め立て地の華」とも言うべき、コアジサシのコロニー。この二つ。切っても切れないものであることは、多量なりとも「それ」を知っている人にとっては、想いが相交するところであろう。

砂丘を想えば、あのコアジサシ度を。

そして、コアジサシ度を想えば、あの砂丘の連なりを。

「サクッサクッ」。サーッ、サーッ、フカッフカッ、あの音、あの感触、あの暑さ、無数の日貝がラとまぶさ。いふは足とこの世界。そして頭上には、あのコアジサシの群舞と鳴き声。「キーッ、キーッ、キーッ、キーッ」。

「ユッ、ユッ、ユッ」。白い体と、その翼が、夏の青空を背に、陽の光で透けて見え、ひときり白くかぐわしいものであった。

何千回あの砂丘を、ヨタリ、と登り、あえぎ、グッタリながらヨロくと下ったことか。何千回、真夏の埋め立て地のまん中で、空を見上げ、ポソポソとひよ時、「ああ、ああ、ああ、ああ」。

「ああ」と思っただことか。

撮影 藤富敦郎氏 (アニメ)より

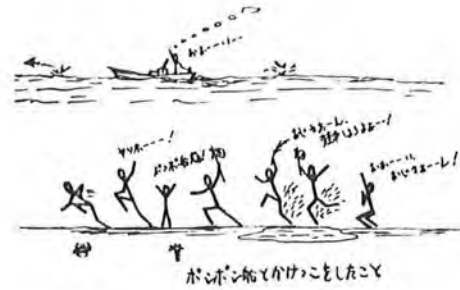


お振込は千葉銀行012-54253  
谷津干潟愛護研究会

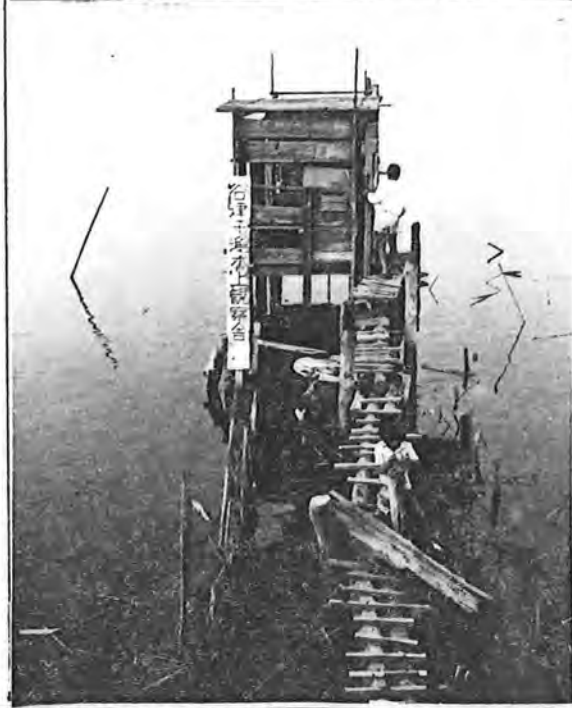


テーブルやベンチ、堤防の上にペンキを塗っています。「クリーン作戦・谷津干潟」と書いてあります。子供たちを手伝って休ませます。

学校の放課後や日曜日になると、子供たちの自転車すがたがたくさん見られます。



人が中に入って隠れ、鳥を間近に見る為に作った、水上観察舎。しかし、子供たちにとっては恰好の遊び場です。



「おぉーいっ、見えたぞおーっ！」と、よくプロミナーをのぞきに來ます。

この写真は、昭和52年のものです。当時、ニ枚貝は全滅し、環境は悪くなるというのが、市や一般の考え方だったのだが。





第38回 谷津干潟クリーン作戦をもって、「ふかんど」100号とします。

# ふかんど

第100号

1981.10.24

谷津干潟愛護研究会  
 〒272 市川市北方二丁目三五〇六  
 電話 0476-116668  
 文責 森田三郎

会費 年2000

創刊  
1980.6.3

ハ子供たちは、同じ沼や川でも、ヨシヤ、水辺に草のある所のほうが、魚がぬきなのを知って  
 いきました。✓

## 第38回 谷津干潟クリーン作戦

近くに住む主婦が3人と、男は森田一人。  
 。こ水が、この日の「戦力」でした。「な  
 あーんだあ、そんなもんかあし。あれあ  
 っ、誰だい、そこでハナを鳴らしてせせら  
 笑ったのは？。まあ、いいさあ。ようだよ  
 、「ソナナモン」だよ、いつもこれと大  
 差なんでしょうよ。とってとやわらかくてヤ  
 さしいご婦人と、こ水又、思ひ切って硬い  
 男が、奇妙なとり合わせとなって協力い  
 い、微弱なオラとやって来ました。そのた  
 りまざる微弱の行為の継続が、市・県・国  
 を、清掃へと、とにもかくにも動かしたん  
 です。それでは、私産よりも、何百倍と大  
 きい他の団体は、何をして来ましたか？。  
 小石一つ、紙クズ一枚ですら、行政自らに  
 干潟から引き上げさせる事ができませんでしたか。



今日一日で清掃したゴミです。大の男が手を  
 つけないものを、主婦がとり組んでいます。



清掃している時と、すぐ足元の水に、魚の大群が来て、水音をたてて泳ぐのでした。

お振込は千葉銀行012-54253  
 谷津干潟愛護研究会



### 朽ちてゆきます

ぼく、ベニチです。3年前は流木でした。その前は、工事に使われていました。その前は、ぼくの体に、たくさんの枝と葉を茂らせて、セミヤトニボ、そして小鳥たちを、雨や風から、夏の暑さや冬の寒さから守ってやりました。その前のとっと小さかった頃は、母さん木や仲間の木、そしていろんな木の友産をいっしょに、ふじさの地で、みんなをいっしょに早く大きくなろうと思ってました。谷津干潟の自然緑地、ここでゆめます。



### 捨てられてしまったのです

どう私、役に立たなくなってしまったのゆ、あきらめてしまったのゆ。だから、だからこうして捨てられてしまったのゆ---。でも、私、いいの。だって、いつの日にか、こうなることはわかっていたんですもの---。私、何にも、言わないわ、私、黙って、このまま、捨てられていくわ。「ゴミ---」、そう、いれでいいの、私、ゴミになっていきます。私、何にも言わないわ---、私、今、かわいくなってくれた思い出を、いれに今一つ一つ思い出しながら、数えているの---。



### 埋もれてゆくのです

埋め立てられる前は、私も生きていました。そこは、広い広い干潟の中でした。私のまわりには、干潟の友産がいっぱいありました。イソギンチヤクヤニシボツコ、ウミホウズキにシヤコヤカニガ、ソフといてくれました。空を暗くして、大きな雲が流れるようにして、シヤチドリが飛んでいくのでした。魚たちも、潮をいっしょにやって来て、私のそばを泳ぐのでした。でも、今はもう、このまま去っていきます。そう一度、海に入りたいたいなあ---。